

聖徒の道

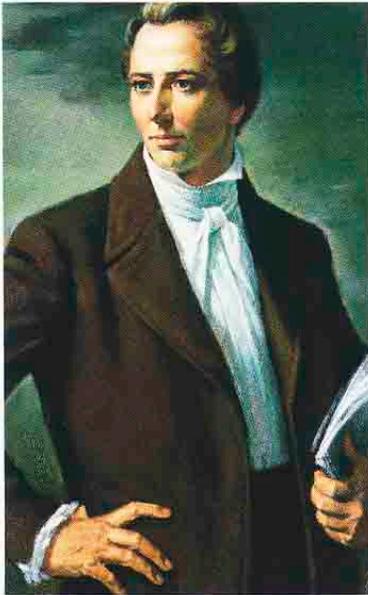
6
1994



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1994年6月号



表紙——ジョセフ・スミスは1844年6月27日に殉教した。今年は「この神権時代の最初の予言者が自分自身の血をもって回復の証を結び固めた厳粛な出来事」から150年目に当たる。今月号では、大管長会メッセージ(p.2)をはじめ、いくつかの特別記事でその生涯と使命を考える。(絵/アルビン・ギティンス)

こどものページ——「開たく者の母親」
グレゴリー・シーバズ

末日せい徒の開たく者たちは大平原をわたってソルトトレイクけい谷までつらい旅をしました。その中には小さな子どもたちもたくさんいました。8ページの「サラ・マチルダ・ファー」には、一人のそんな女の子の物語がのっています。

一般

大管長会メッセージ——予言者ジョセフ・スミス 模範による教師	
第二副管長トーマス・S・モンソン	2
今週の聖句 スターシー・チャイルド・ウィークス	9
「なすべき業あり」 タイのルチルワン・ボンボングラット 姉妹	
デビッド・ミッチェル	10
94歳で、新しく生まれて ルイーゼ・ウルフ	24
予言者たちとジョセフ・スミス ロバート・L・ミレット	26
ジョセフ・スミス 回復の予言者 マービン・K・ガードナー	36
「あのオランダ人、どこへ行くんだろう！」 C・R・キルシュバーム	44

青少年

タヒチの真珠 キャサリン・C・ペリン	14
だれにコントロールされていますか？ ケネス・ジョンソン長老	18
質疑応答——家族の一致を図るには	20
すべてのつながりを知った夜 キャロリン・ジョンストン	34
夏に育てた証と友情 ジャネット・トーマス	46

定期特別記事

読者からの便り	1
家庭訪問メッセージ——祝福師の祝福から力を得る	25

こども

モーセ ビビアン・ポールセン	2
小さなお友だちへ——フリオ・E・ダビラ長老	4
分かち合いの時間——しゅのへいあん ジュディ・エドワーズ	6
サラ・マチルダ・ファー ジョイ・ジョンソン・ヒートン	8
おもちゃばこ	11
歌 バプテスマをうけるとき ニーター・デール・ミルナー	12
たから物 ロンダ・ベティ作	13
モルモン経物語——しんこうについて教えるアルマ	16

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バック、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ
編集長：レックス・D・ビネガー、ジョー・J・クリステンセン

顧問：ウィリアム・R・ブラッドフォード、スペンサー・J・コンティ、ジョン・H・グロバーク

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボグ
機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

国際機関誌

編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウオーカー

工程管理：メアリーアン・マーティンデル
アートディレクター：スコット・パン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ジェニファー・ダットワイラー、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

予約販売スタッフ

購読管理ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

配送部長：ジョイス・ハンセン
マーケティング部長：ケント・H・ソレンセン
聖徒の道 1994年6月号第38巻第6号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
普通号150円、大会号350円

Copyright © 1994 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年10月 翻訳承認—1991年10月 原題—International Magazines June 1994. Japanese. 94986300
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留が郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

すばらしい機関誌

「タンプリ」(フィリピンの英語版)は、新会員の私がイエス・キリストの福音への信仰と証を強めるのに役立っています。私の霊的成長にとってとても大切な役割を果たしているのです。世界じゅうの兄弟姉妹の証を読むたびに感動を覚えます。より善い人間になろうと努力するとき、彼らの証や教会幹部の勧告は、私を導き、鼓舞してくれます。毎月、機関誌を受け取るのがとてもうれしくて、すぐに読んでしまいます。このすばらしい機関誌を信仰の異なる友人に貸して、福音の真理を分かち合うのも好きです。

フィリピン、ターラックスターキ部
カミリング第4ワード部
ハイディ・I・プリメロ

宣教師の助け手

「ラ・ステラ」(イタリア語版。「星」の意)はイタリア人の聖徒たちだけでなく、イタリアで働く宣教師にとっても、大きな価値があります。

イタリア・ローマ伝道部に着任した時、これからは「ラ・ステラ」を購読できると思うと胸が高鳴りました。しかし、伝道に出て間もないころは「ラ・ステラ」を読めるほどの語学力がなかったので少ししりごみしてしまいました。

それでも、時間がたつにつれてイタリア語が大好きになりました。今では、毎月美しい言葉でイエス・キリストのすばらしい福音についてのメッセージや記事が読めるのを楽しみにしています。特にローカルニュースのページで、以前伝道したいいくつかの支部の人たちや彼らの活動に関する記事を読むのは

楽しいものです。

イタリア・ローマ伝道部
エリック・シャーマン長老

予言者を家庭に招く

最近ワード部で行なったレッスンの中でこんな質問をしました。「主の予言者から勧告の言葉を聞きたいと思う人は手を挙げてください。」全員が手を挙げました。それに続いて私はこう言いました。「予言者や教会幹部のかたがたの勧告を受け、家庭にそのメッセージを取り入れるいちばんいい方法は、『リアホナ』(スペイン語版)を購読することです。」

現在私は、ワード部で「リアホナ」の予約購読係をしているのですが、この召しを与えられたことをとても喜んでます。また、主は私がこの責任を一生懸命に果たすときに祝福を与えてくださいます。

チリ、ロスアンヘレススターキ部
アルミランテ・ラ・トレワード部
マルセロ・イルナルド・カスティロ・ナバレッテ

編集室から

愛読者の皆さんに心から感謝しています。皆さんの手紙、記事、物語などをお寄せください。どの国の言葉でもけっこうです。(投稿の際は、住所、氏名、スターキ部/伝道部/地方部、ワード部/支部名を明記してください)あて先は下記のとおりです。

International Magazines
50 East North Temple Street
Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



予言者ジョセフ・スミス 模範による教師

第二副管長
トーマス・S・モンソン

「**私**は主の千八百五年十二月の二十三日、ヴァーモント州ウインソル郡シャロンの町で生れた。」¹ この偉大な神権時代すなわち時満ちたる神権時代の最初の予言者、ジョセフ・スミスの言葉です。彼のこの言葉と、さらにそれに続けて語られた証^{あかし}はこれまでに、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、ポーランド語などをはじめ、文明社会のほとんどの言語に翻訳されてきました。男女を問わず、彼の真摯^{しんし}な言葉を読んだ誠実な人々は、その考え方、生き方を変えてきました。これが少年予言者ジョセフ・スミスの簡潔な証の真価です。

主の1805年12月23日当時のシャロンの町に戻ってみたいと思います。私と一緒に旅をしてみませんか。その日にあった数々の劇的な出来事を一緒に見てみましょう。ジョセフ・スミス・シニアとその妻ルーシー・マック・スミスは、自分たちに授けられた幼い子供の顔を幸福そうに眺め、お産が無事に終わり、その子が生まれたことを主に心から感謝したことでしょう。そして、かの詩人と同じ思いで、その子を「咲いたばかりのかぐわしい花のような子、地上に咲くために、神の家から降りて来たばかりの子」² と言ったことでしょう。特別に選ばれた霊がやって来て、地上の幕屋に宿ったのです。

「彼の子供時代、少年時代は、何か変わったものだったのでしょうか」「予言者ジョセフは、私や私の兄弟たちとは違う人間だったのでしょうか」というような質問をする人々がときどきいます。彼の母親ルーシーの言葉を読めば、予言者の



私たちは生涯の模範を通して偉大な原則を教えた予言者ジョセフ・スミスに倣うことにより、救い主への証^{あかし}を強めることができる。

子供時代について知ることができるのではないのでしょうか。彼女はこう言っています。「読者の中にはがっかりする人もいるでしょう。なぜなら……彼の子供時代の出来事として、とても劇的なことをたくさん話すだろうと考えている人々がいるからです。しかし、あの時期によくある平凡な出来事以外、彼の子供時代には何も起きませんでした。ですから、それらのことについては何も書きません。」³ 私たちがジョセフ・スミスの少年時代について、その母親の言葉から知り得るのは、これだけです。

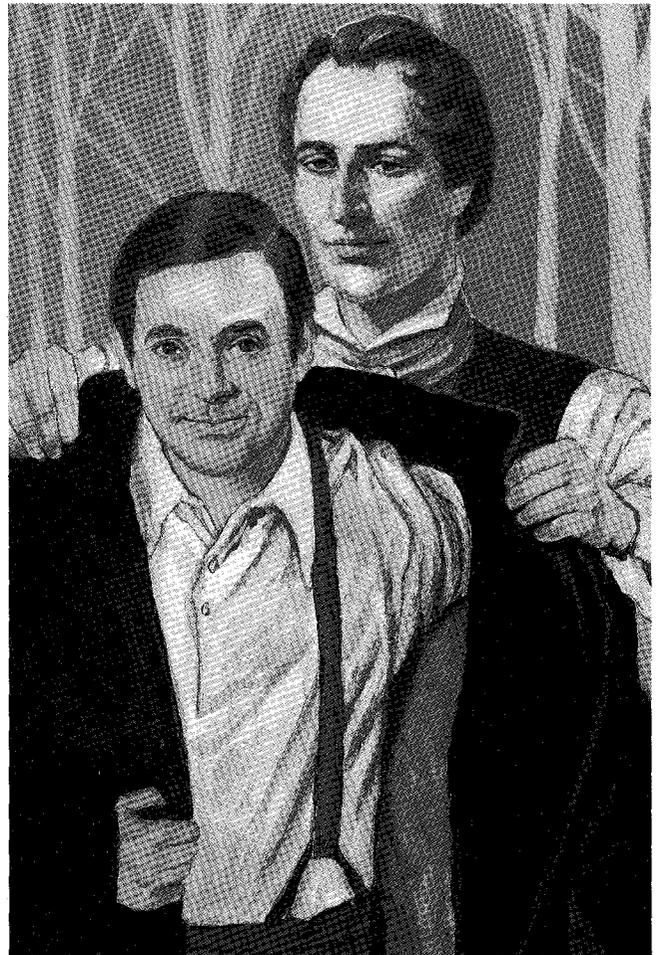
しかしジョセフ・スミスの幼年時代、彼の家族は病気や不運を体験しました。善良な父親は何度か所を変えながら、農業で生計を立てようとしましたが、どこへ行ってもあまり成功できませんでした。ジョセフは7歳の時、兄弟たちとともにチフスにかかってしまいました。ジョセフ以外の子供たちはすぐに快復したのですが、彼だけはひざにひどい痛みがあって、それは治りそうにもありませんでした。医師たちは、当時の状況としてはできるかぎりのことをして治療に当たりましたが、痛みは取れませんでした。最後に医師たちは、残念だがジョセフの足を切断しなければならない、と考えました。

幼い子供の足を切断しなければならないと言われた両親の悲しみと嘆きは察するに余りあります。しかし、ありがたいことに、ある時何の予告もなく医師たちがスミス家を訪ね、骨の一部を取り除く新しい手術法を試してみたい、そうすれば痛みがなくなるだろう、と言ったのです。彼らは何本かひもを持って来て、ジョセフをベッドに縛りつけるつもりでした。足を切開して骨の一部を取り除くといっても、麻酔薬もなければ、鎮痛薬もなかったからです。

しかし幼いジョセフは「縛らないで。自由な方がずっとよく手術を我慢できるから」と答えました。

それを聞いて医師が言いました。「ではぶどう酒を飲むかね。……とにかく何かを飲まないといけな。そうしないと、この大変な手術に耐えられないから。」

少年予言者がまた口を開いて言いました。「いらない。……でもぼくの言うことを聞いて。お父さんがベッドの



予言者ジョセフは自分の着ていたコートを脱いで、ジョン・E・ページに与えた。彼はそのコートのぬくもりを力として、カナダでの伝道を成功させ、600人以上を教会に導いた。

所において、ぼくを押しえてくれたら、骨を取り出すのにしなくちゃいけないことは何でもします。」

そして、ジョセフ・スミス・シニアが少年ジョセフを押しさえ、医師たちが足を切開し、患部の骨を取り除きました。その後しばらくは足を自由に動かせない時期がありましたが、やがて快復しました。⁴ 予言者ジョセフ・スミスは7歳にして、模範を通して 私たちに勇気を教えてくれたのです。

ジョセフが10歳の時、11人になった彼の家族は、バーモント州からニューヨーク州オンタリオ郡のバルマイラへ引っ越しました。そしてその4年後には同じ郡内のマンチェスターに移り住んでいます。ジョセフはここで、その地域一帯に広がり、すべての人の心を強く引きつけた信仰復興運動について書いています。彼の言葉を読んでみましょう。「何分いろいろな教派間の混乱と争闘が激しかったから、私のような年もゆかず世故にも長けて

いない者にとっては、何人が正しく何人が間違っているかなどのしっかりした結論を得ることはとてもできなかった。……

これらの宗教家連中の論争から引き起された極度にむつかしい事情の中で、私が心を苦しめて居るある日のこと、私は新約聖書ヤコブ書第一章第五節の『汝らの中もし智恵の欠くる者あらば、惜しむことなく、また咎むることなく、すべての人に与うる神に求むべし、さらば与えられん』という所を読んでいた。』⁵

予言者は、この聖句を読んだ後で、主の約束を試すため主にお尋ねするか、そのまま永遠に暗黒の中にとどまる道を選ぶか、どちらかにしなければならぬと確信したと言っています。また、祈るために森の中へ入って行ったが、口に出して天父に祈ろうと思ったのは、それが最初だったとも述べています。しかし、彼は聖典を読んで理解し、永遠の父なる神を信頼していました。そして、神は自分が熱心に求めている光を与えてくださるとの確信をもって、ひざまずき、祈ったのです。予言者ジョセフ・スミスは、模範によって私たちに信仰の原則を教えてくださいました。

皆さんは、ジョセフ・スミスが「自分は示現を受けた」と言った時に、若い友人、あるいは年上の友人、そして敵対的な人々からどれほどひどいあざけり、さげすみ、侮蔑を受けたか想像できるでしょうか。この少年にとってそれは堪えがたいほどのものになったことでしょう。しかし、彼は自分自身に誠実でした。彼の次の言葉から、それがわかります。「私は実際に光を見た。その光の唯中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれまた迫害せられても、なおそれは真実である。そして私がこのように言うために、人々が私を迫害し罵り偽ってあらゆる悪口をあげている間に、私は自分の胸の中で語るようになった『何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ、私がどうして神に抗えようか。何故世の中の人々は、私が本当に見たものを見ないと言わせようと思うのか。私は示現を受けたのであるからそれが事実であるのを身を以て

知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。……』」⁶予言者ジョセフ・スミスは、模範によって正直の何たるかを教えてくださいました。

すばらしい最初の示現の後に続いたのは、普通では考えられないようなことでした。予言者ジョセフはその後3年間、何の示しも与えられなかったのです。しかし、彼はいぶかることも、疑うこともしませんでした。主を信じていたのです。予言者ジョセフは忍耐強く待ちました。予言者ジョセフは、模範を通して私たちに忍耐の原則を教えてくださいました。

何度も天使モロナイの訪れを受け、金版を託された後に、予言者は困難な翻訳の仕事に着手しました。それは目を覚ましているすべての時間、すべての意識、昼夜のすべての行動、そしておそらくは、生活の全時間を一点に集中させなければならない仕事でした。2,600年にわたる歴史を数百ページにまとめたこの記録を90日足らずの時間で翻訳するために、どれほど献身的な働きが求められたことか、私たちには想像することしかできません。その記録のどこを見ても、不合理なこと、でたらめなこと、矛盾したことは書かれていません。ジョセフは働き、学び、自分の責任に専念しました。予言者ジョセフ・スミスは、模範によって私たちに勤勉とは何かを教えてくださいました。

私は、ジョセフの翻訳を助けていたころの様子について述べたオリヴァ・カウドリの言葉が好きです。「この胸のこよなき感謝を眼覚めさせたる、天来の靈感が命ずるままに語る声を耳にして座せんとは、こは決して忘れられぬ日々なりき。『モルモン経』と言う歴史すなわち記録を……『ウリムとトミム』によりて彼が翻訳するままに口ずから語るを予は毎日絶え間なく書きつづけたり。』」⁷

予言者ジョセフは確かに、信仰を鼓舞する力に恵まれていました。ある天気の良い日の朝、ジョセフはジョン・E・ページに歩み寄って、こう言いました。「ジョン兄弟、主はあなたをカナダへの伝道に召していらっしゃいます。」

ジョン・E・ページはかなり驚いた様子で、こう答えました。「どうしてですか、ジョセフ兄弟。私にはカナダへの伝道は無理です。コート1枚すらないのですから。」

すると予言者は自分の着ていたコートを脱いで、ジョン・ページに渡し、「どうぞ、これを着て行ってください。あとは主が祝福してくださることでしょう。」ページ兄弟はそのコートを受け取ると、カナダへ向かいしました。そして、神の予言者の言葉に信頼を置きながら、2年の間に8,000キロの距離を歩き、600人以上にバプテスマを施しました。⁸

ある時、ジョセフはノーヴーで兄弟たちに向けて伝道活動の大切さについて話をしました。話が終わると、彼が伝えたメッセージに心から感動して、聴衆の中の380人が自分自身の意志ですぐに伝道に出ました。⁹

予言者ジョセフは伝道活動に信念を抱いていました。1833年10月12日、彼はこの時シドニー・リグドンと一緒にニューヨーク州ペリーズバーグで伝道をしていました。ふたりが長い間離れて暮らしていた家族のことを心配していた時、次のような啓示が与えられました。

「誠に、主かくの如く汝らに告ぐ、わが友シドニーとジョセフよ。汝らの家族は健在なり。彼らはわが手の中に在りて、われはわが心に善しと見る如く彼らに為すべし。われには、あらゆる能力あればなり。

故に汝らわれに従いて、わが汝らに与えんとする助言を聴くべし。

見よ、……この地この周りの地方には、われは多くの民を有てり。さればこの東方の地に於て、この周りの地方に効果ある門戸開かるべし。

この故に、誠にわれ汝らに告ぐ。この民に向いて汝らの声を挙げ、而してわが汝らの心に与えんとする思想を語れ。さらば、汝ら人々の前にあわて惑うことなかるべし。

そは、汝らの言うべきことはその時その瞬間に与えらるべければなり。……

さらば、われこの事を約束す。すなわち、汝らこれを為さば、聖霊汝らに注がれて何事にまれ汝らの語るすべてのことを証せん。」¹⁰

ジョセフとシドニーは伝道の働きを続けました。

ジョセフは進んで伝道に出よう人々を鼓舞し、ある時には、伝道へ出て行くジョン・ページに自分の着ていたコートを脱いで渡しました。しかし、それだけではありませんでした。模範によって伝道活動の大切さを教えたのです。

予言者の教えの中で最もすばらしく、そして最も痛ましい感のある教訓のひとつは、彼がその死期を間近に控えて語ったものではないでしょうか。彼は示現の中で、聖徒たちがノーヴーを去り、ロッキー山脈へと進んで行く様子を見ていました。彼はモーセと同じように、人々を迫害者の手から逃れさせ、主なる神が自分に示して下さった約束の地へ導きたいと心から願っていたことでしょう。しかし、それは許されませんでした。自分の計画とロッキー山脈の啓示を人に託し、正義を装った法廷に立つよう求められたのです。

彼はこう言っています。「われは、今ほふり場に引かゝる子羊の如く行く。されど、わが心は夏の朝の如くに穏かなり。わが良心は神に対しましたすべての人に対しいささかの咎めもなし。」¹¹ この予言者の言葉から私たちは、律法に対する従順と確固たる良心を持つことの大切さを学べます。予言者ジョセフ・スミスは模範によってこれらの原則を教えたのです。

この世の生涯が幕を閉じる前にも、偉大な最後の教訓があったはずです。彼は兄のハイラム、ジョン・テイラー、ウイラード・リチャーズとともにカーセージの牢獄に拘禁されていました。怒り狂った暴徒たちは牢獄を襲撃し、汚れたのろいの言葉を吐きながら、武器を手にして階段を上り、銃を乱射し始めました。まずハイラムが射たれて死にました。次にジョン・テイラーも胸に数発の弾丸を受けました。予言者ジョセフは銃を手にして、自分と兄弟たちの命を守ろうとしていました。しかし彼はドアを激しく銃撃する音を聞いて、暴徒たちは自分を殺そうとしてドアを打ち破り、事のついでにジョン・テイラーとウイラード・リチャーズをも殺してしまうだろうと判断しました。この時のジョセフの振る舞いは、まさしく彼が地上でなした最後の偉大な行ないでした。彼



予言者ジョセフとその兄ハイラム・スミスは1844年6月27日、カーセージの牢獄を武装して襲った暴徒に殺された。ハイラムは最初の銃撃で命を落とした。予言者ジョセフは、自分を攻撃的とすることによって、部屋にいたほかのふたりを守ろうとして殺された。

はそのドアから離れるとウイラード・リチャーズを安全な方へ退かせました。そして、銃を床に投げ捨て、窓の方に向かったのです。それは無慈悲な暴徒たちに自分の姿を見せ、それによって彼らの注意をほかのふたりではなく、自分の方に引きつけるためでした。かくしてジョセフ・スミスはその命を落としました。ウイラード・リチャーズは無傷でした。そしてジョン・テイラーの傷も後には癒えました。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」¹² 予言者ジョセフ・スミスは、模範によって私たちに愛を教えてくださいのです。

今年の6月27日は、この神権時代の最初の予言者が自分自身の血をもって回復の証を結び固めた厳粛な出来事の150回目の記念日です。私は彼が神の予言者であったことを証します。私はこれまでに、主が予言者ジョセフ

の証を通して人々を救いの計画に改宗させるさまを目の当たりにしてきました。随分前になりますが、私はカナダ伝道部で伝道部長として働いたことがあります。カナダ、オンタリオ州のオシャワという市で、ある寒い雪の日の午後、ふたりの宣教師が戸別訪問の伝道をしていました。それまでの時間、何の収穫もありませんでした。ひとりはかなり経験があり、もうひとは召されて間もない宣教師でした。

ふたりはエルマー・ポラード氏の家のドアをノックしました。ポラード氏は凍えるようにしている宣教師を見てかわいそうに思い、中へ招き入れました。ふたりは彼にメッセージを伝え、一緒に祈ってもらえないか尋ねました。ポラード氏は、自分が祈るという条件でそれに同意しました。

ポラード氏の祈りに宣教師たちは驚きました。彼はこう祈ったのです。「天のみ父、この哀れなさまよえる宣教師たちに恵みを垂れたまえ。彼らが自分の故郷へ帰り、自分もろくに理解していないおかしな教えをカナダの人々に伝えて無駄な時間を使うことのないように導きたまえ。」

祈りを終えて立ち上がる時、ポラード氏は宣教師たちに、自分の家には二度と来ないようにと言いました。ふたりが家を出る時に、彼はあざけるように言いました。「ジョセフ・スミスが神の予言者だなどとほんとうに信じているわけでもないだろうに。」そして、ドアを閉めたのです。

少し行ったところで、後輩の宣教師が言いました。「長老、私たちはポラードさんの言ったことに答えませんでした。」

すると先輩の宣教師は、「ぼくたちは追い払われたんだよ。別の所へ行こう」と答えました。

しかし、その新任の宣教師は考えを変えず、結局ふたりにポラード氏の家へ戻ったのです。ノックにこたえて出て来たポラード氏は怒りながら言いました。「絶対戻って来ないように言ったはずだがね。」

後輩の宣教師は、ありったけの勇気を振り絞って言いました。「ポラードさん、先ほどあなたは、私たちがジ

ヨセフ・スミスが神の予言者であることを信じていないと言われました。ポラードさん、あなたに証したいと思えます。私はジョセフ・スミスが神の予言者であること、彼が靈感によってモルモン経というこの神聖な記録を翻訳したこと、そして彼が父なる神と御子イエスにまみえたことを知っています。」それからふたりの宣教師はその家を去りました。

私はこのポラード氏が証会で、その忘れられない日の体験について次のように話すのを聞きました。「その夜はどうしても寝つけず、ベッドの中で悶々としていました。『ジョセフ・スミスは神の予言者です。私は知っています……私は知っています……私は知っています』という言葉が、何度も何度も頭の中に響きました。次の日の来るのが待ち切れませんでした。宣教師が置いて行った小さな信仰簡条のカードに書かれていた住所を見て、私は彼らに電話をかけました。ふたりはもう一度私の家に来ました。そしてその時は、偏見を捨てて、妻や子供と一緒に、熱心な真理の求道者として、宣教師と話し合いました。その結果、私たちは全員、イエス・キリストの福音を受け入れました。私たちは、勇敢で謙遜な宣教師たちが伝えてくれた真理の証に永遠に感謝します。」

教義と聖約第135章には、予言者ジョセフについて述べたジョン・テイラーの言葉が書かれています。

「主の予言者にして聖見者なるジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり。僅々二十年の短日月に、モルモン経を世に出してこれを神の賜物と力とによりて翻訳し、東西両大陸にてこれを刊行する媒ちとなれり。また世界の四極に至るまで、この書に載せたる完全なる福音を弘め、……『教義と聖約』なる本書を構成する啓示と誠命並びに他に多くの智慮ある文書と教訓とを世に出せり。また、幾千の末日聖徒を集め一大都市を建設して朽つる能わざる誉と名声とを遺せり。彼は神とその民の眼前に偉大なる生涯を送り、偉大なる死を遂げたり。而して、昔主の聖任したまいし者らのほとんどすべてが然ありし如く、彼の使命と事業とを己が血を以て結び固めたり。彼の兄弟ハイラムもま

た然り。両者はその生くるや形影相伴い、死ぬるやまた相共に倒る。」¹³

なんと神の予言者にふさわしい賛辞ではないでしょうか。予言者ジョセフの模範から、彼が明確に教えてくれた偉大な原則を自分の生涯に取り入れ、彼の足跡に倣えるようになることを、皆さんが理解できるようにお祈りします。また私たちは、神が実在のお方であり、イエスがその御子であること、そして自分たちが現在も神の予言者に導かれているという知識を得ていますが、そのような知識にふさわしい生き方ができるようにお祈りします。□

話し合いのポイント

1. 予言者ジョセフ・スミスはその生涯を通して、イエス・キリストの福音が説く原則と徳について教え、それに従った生き方をした。
2. 予言者ジョセフ・スミスは模範によって、勇氣、信仰、正直さ、忍耐、勤勉、伝道活動の大切さ、律法への従順、確固たる良心を持つことの大切さ、愛などについて私たちに教えた。

注——

1. ジョセフ・スミス 2 : 3
2. ジェラルド・マッシー
3. ルーシー・マック・スミス「母親が語るジョセフ・スミスの生涯」p. 67
4. ルーシー・マック・スミス「母親が語るジョセフ・スミスの生涯」pp. 54—58参照
5. ジョセフ・スミス 2 : 8, 11
6. ジョセフ・スミス 2 : 25
7. ジョセフ・スミス 2 : 章末注
8. 「歴史記録」第5巻第5号(1986年5月号), p. 57参照
9. 「教会歴史」5 : 139参照
10. 教義と聖約100 : 1—3, 5—6, 8
11. 教義と聖約135 : 4
12. ヨハネ15 : 13
13. 教義と聖約135 : 3



今週の聖句

ステーシー・チャイルド・ウィークス

我が家の息子たちは全員10歳以下です。このやんちゃ盛りのお子のおかげで、時折、家庭の夕べがチャレンジに思われることがあります。レッスン中の霊的な雰囲気を保つのにとても苦労しながら、やっと家庭の夕べを終えたある晩のことです。私は導きを求め、ひざまずいて祈りました。答えはすぐに与えられました。皆で聖典を読む必要があると感じたのです。息子たちの注意がそがれるのを心配して、それまで家庭の夕べでは聖典を読んでいませんでした。しかし祈った時、聖典を愛し、聖典に感謝する力が子供たちにも備わっていることを忘れていたと気づきました。

次の家庭の夕べから、新しい我が家の伝統として、「今週の聖句」を始めることにしました。前もって、明るい色の大きな紙に、好きな聖句を大きく書き写しておきました。そして家庭の夕べの時間が始まると、その紙を見せながら、聖句を読むのです。「この故にすべての談話により、すべての祈りにより、すべての訓戒により、すべての行為により、汝の兄弟たちを強くすべし。」

(教義と聖約108：7)

全員でその聖句をもう一度読みました。その後、この聖句が自分にとってなぜ必要で、私たちの生活にどのような祝福をもたらしているかを話しました。皆が強くみたまを感じ、残りの時間も平安な気持ちで過ごせました。

翌日の朝食時、家族皆の視線は「今週の聖句」に注がれました。私が食器棚にテーブルではっておいたのです。そして、皆で聖句の意味をおさらいし、もう一度大きな声で読みました。

それから何日か後のことです。驚いたことに、子供が「今週の聖句」を思い出しながらそらんじているのを耳にしました。同時に、私自身も無意識のうちに、その聖句を暗唱していることに気づきました。「今週の聖句」をともに学び、その聖句に対する証^{あかし}を分かち合ううちに、いつしか皆の心はその聖句の言葉に向けられ、聖句の伝えるメッセージによって気持ちが高められ、聖句から受けるみたまによって家庭に祝福がもたらされていたのでした。□

「なすべき業あり」

タイの ルチルワン・ポンポングラット姉妹

デビッド・ミッチェル

「父は私が4歳の時に亡くなりました。ふたりの暴漢に襲われていた若い女性を助けようとして刺され、死んだのです。父のいない寂しさはたえようもなく、心の傷となっていていつも私に付きまといました。しかし、13歳の時に、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師と出会ったことで、その心の傷は癒いよされました。天父の愛を見いだしたからです。天父は私の話し相手となつて、私の話に耳を傾け、私の心を慰めてくださいました。また、救いの計画を通して、いつの日か亡くなった父と再会できることも学びました。」

タイのバンコクに住むルチルワン・ポンポングラット姉妹が初めて宣教師と会ったのは、10代の初めに、教会で催される英語クラスに出席した時でした。最初の英語クラスの後で、彼女はミューチャルの活動に招待されました。「楽しい夕べの後で、ひとりの教会員が祈りを捧げました。祈りの間、それをどなたかが聞いてくださっているという気がすると同時に、だれかにやさしく抱かれているときのような温かい気持ちを感じました。父を亡くした心の傷を癒すきっかけを与えてくれたのは、その時の祈りと祈りの間に感じた気持ちでした。私は、自分でも祈れるようになりたい、このような気持ちを何度も感じたいと思いました。そこで、自分も福音を学び、祈るすべを身につけられるかどうか、宣教師に尋ねたのです。」

それから2カ月の間、私は宣教師から福音について学び、バプテスマを受けました。宣教師が祈り方を教えてくれた時、これで私も自分で祈れるのだと思うと喜びでいっぱいになったのを覚えています。その夜私は自分の

部屋に入り、ドアを閉めると、宣教師の語ったことがはたして真実かどうか教えてくださいよう天父に祈り求めました。天父は確かに私の祈りを聞いてくださいました。その時初めて天父が私をほんとうに心にかけてくださっているのがわかりました。私はもううれしくてしかたありませんでした。そして、翌朝早く、学校に行く途中、宣教師のアパートの前に立ち止まり、彼らの住む最上階の部屋の窓に向かって大声で叫びました。「長老！ イエスというお方がほんとうにいらっしゃるってわかりました。天父が生きておいでになるのも知っています！」

私は、父と再会できる方法をとうとう見つけたこと、そしていつの日か再び家族と一緒にになれることを母に伝えました。母は父を心から愛していたので、再婚していませんでした。彼女は、学校でのことに限らず何をするにも、私がいつも最善のものに目を向けようとしていることをよく知っていました。母は熱心な仏教徒でしたが、この教会が私にとって最善のものだとわかってくれました。」

ポンポングラット姉妹は、学業をさらに続け、タイ北部にあるチェンマイ大学で政治学を専攻しました。また在学中、英会話の能力も伸ばしました。

母親は、娘がさらに大学で学業を続け、修士号を取るように期待していました。「でも、私は母に伝道に出たいと告げたのです。母は、勉学に励むべき年月を犠牲にしてはいけないと言って反対しました。私は母が伝道に出ることを許可してくれるよう熱心に祈りました。このことで私はとても重要なことを学びました。」

我が家には、ひとりの若い男性が同居していました。





教室にいるとき(左上), マニラ神殿にいるとき(右上),
また若い生徒たちに囲まれているとき, どんなときも,
ルチルワン・ボンボングラット姉妹は、「最善を尽くし
て」福音の原則を実践しようと努めている。



25歳ぐらいで、母はこの男性を、養子にきた息子のように大事にしていたのです。彼は病弱でしたが、しばらくの間仏教の僧として奉仕していたことがありました。この時、母はいろいろと彼の世話をし、援助していました。私はこの男性に対する母の親切な接し方にとっても嫉妬していました。彼と同じテーブルに着こうとさえしませんでした。

母から伝道に出る許可をもらえるよう天父に祈り求めた時に、ひとつの答えをいただきました。その答えというのは、まず私がすべての人を愛していることを母に示す必要があるということでした。たとえ相手が、あれほど嫉妬心を抱いていたあの若い男性であってもです。この答えは私にとって受け入れがたいものでした。しかし翌朝彼に会った時、私は手を振って『おはよう』と言いました。それは7年間で初めて私が彼に対して口にした言葉でした。母の方に目を向けると、母の目には涙があふれていました。その瞬間、すべてがうまいくちいと思えました。私は、伝道に出たいと心から願っていること、母の支えが何よりも大切なことを伝えました。私は母が私のためにしてくれたすべてのことに心から感謝しています。」

タイ伝道部での伝道から帰還したボンポングラット姉妹は、ある出版社で5年間働きました。しかし、しばらくするともっと人に奉仕できる仕事をしたいと思うようになりました。そこで彼女は、 Cholpru にあ

るファンナット・ニコム難民キャンプでの仕事に応募しました。そこは東南アジアからの難民が新しい生活を始める準備をする所でした。このような難民の中には、アメリカに後援者がいて、その国の習慣や文化を学ばなければならない人たちもいました。

「難民キャンプの責任者は、英語がよくできる人物を雇いたがっていました。私は面接で、英語はそれほどうまくないけれども、アメリカの文化についてはよく知っているつもりだと告げました。また、難民たちに、自分が彼らを楽しんでおり、彼らが大切な存在であり、神の子であるということをお伝えしたいと話しました。面接官は私を見てこう尋ねました。『あなたは、一体どういう方ですか？ モルモン教徒ですか？』そう言われたものの、私は採用されました。」

ボンポングラット姉妹が教える相手は、避難民だけではありませんでした。教会にあってはセミナーとインスティテュートのクラスも教えたのです。「私自身セミナーやインスティテュートの生徒だったころ、日記をつけ聖典を学ぶことの大切さを学びました。」こう彼女は回想します。「いつも自分が覚えたいと思った聖句を書き出し、それを日々の生活の指針として活用したものです。」

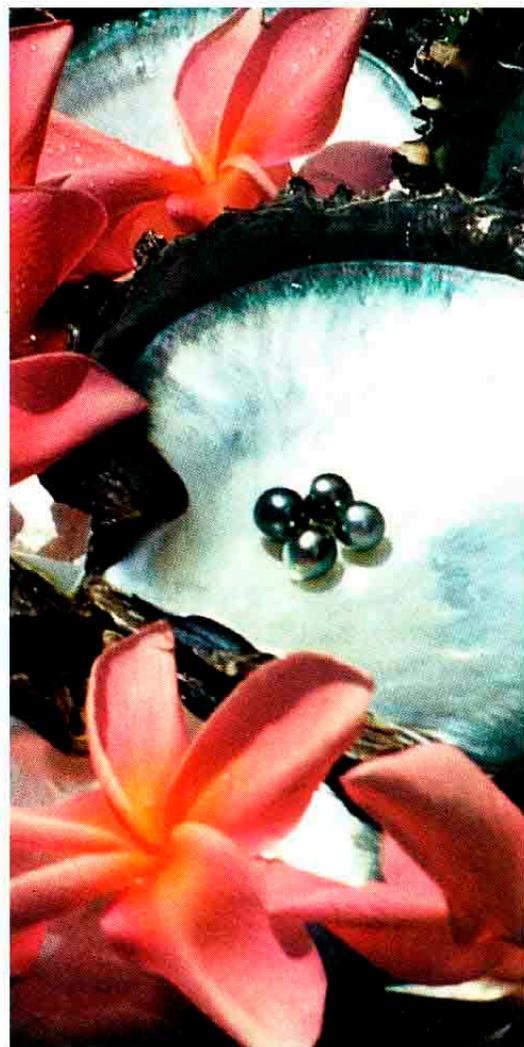
ボンポングラット姉妹は、バプテスマの儀式だけでなく、神殿でエンダウメントを受け、祝福師の祝福も受けました。このふたつの経験は彼女にとって大きな力の源となっています。「エンダウメントと祝福師の祝福は、私に導きと力を与えてくれます。かつては結婚していないことに悩んでいた私ですが、今は、どんなときでも戒めを守り教会に活発でなければならないこと、最善を尽くして福音の原則にそった生活をしなければならないことを自覚しています。そうするならば、すべては好都合となるのです。自分にはなすべき業があるのだ、と感じています。」□





タヒチの 真珠

キャサリン・C・ペリン



フランス領ポリネシアの島々に住む若い末日聖徒たちは、ユースカンファレンスを開きたいと思いましたが、以下のような困難な問題に直面していました。

問題1——開催場所。どの島も互いに遠く離れていて、通信も交通も定期的には行なわれていません。

問題2——法律。政府の規定により、青少年の集会は公認されたディレクターの監督の下で行なわれ、認可基準に合うものでなくてはなりません。

問題3——食物。環状さんご礁の粉碎されたさんごが土壌のため、食用となる植物がほとんど生えず、人々は魚やココナツ、それにタヒチから船で運ばれて来るものを常食としています。

問題4——水。川も湖もありません。飲料水といえば雨水だけです。



PHOTOGRAPHY BY KATHLEEN C. PERRIN

問題 5 — 宿泊施設。 離島には、寮や簡易宿泊所、ホテルなどはありません。参加者はどこに泊まったらいでしょうか。

このように多くの問題があるので、ついあきらめてしまいたくなります。しかし、島の聖徒たちは信仰があれば、神の助けにより答えを見いだせることを知っていました。そこで、カンファレンスの計画を続けました。すると間もなく、解決策が見つかったのです。

解決策 1 — なるべく地元で開催する。 カンファレンスの実行委員たちは、いくつかの小さなカンファレンスをそれぞれ地元で開催することに決めました。こうすれば、青少年のグループは長距離の旅行をしたり、多額の費用をかけたりせずに集まることができます。最初のカンファレンスは、ツアモツ諸

島にある77の島のひとつ、タカロアで開かれました。タカロアはその地域の教会の中心地で、396人の住民のうち270人が末日聖徒です。

解決策 2 — 喜んで引き受けてくれるスーパーバイザーを探す。 その答えは、タヒチのパエアステキ部の幹部書記を務めるスタンレー・プロディエン兄弟でした。教育心理学者であるプロディエン兄弟は、夏休みに青少年の集会やサマーキャンプ、ハイキングなどを企画実行しています。彼は、政府のしかるべき資格をすでに持っていて、喜んでカンファレンスのスーパーバイザーになってくれました。

解決策 3, 4, 5 — 地元の資源や施設を使う。 タカロアは雨量が多く、貯水タンクがいっぱいだったので、必要な水を供給することができました。

タヒチの末日聖徒の青少年はカンファレンスの計画に当たり、いくつもの困難な問題に直面した。しかし、彼らが真珠の養殖に用いている貝から教訓を学び、忍耐して、それらの困難な問題を輝かしい祝福に変えていった。

いくらかの食糧はクーラーに入れて運び入れなくてはなりませんでした。近くのマニヒ島に住むパン屋のピトリ・ファウラ支部長がパンを提供してくれました。また必要なときは地元の会員たちも、青少年が魚を捕ったり、ココナツを集めたりするのを手伝ってくれました。宿泊施設については、大部分の青少年は会員の家に泊めてもらうことになりました。若者の中には、テントを持って来て、浜辺でキャンプ



太陽の光が降り注ぐタヒチで行なわれた楽しいユースカンファレンスでは、証が強められ、新しい友情が生まれ、主に仕えたいという望みが新たにされた。

した者もいました。

さあ、とうとうカンファレンス開幕です。ツアモツ北ユースカンファレンスに3つの島から参加した70人の末日聖徒の青少年のほとんどは、何らかの形で真珠産業に携わっていて、だれもが、真珠の養殖に必要なスキングダイビングやスキューバダイビングを得意としていました。

真珠の養殖場のほかにも、タカロア島で見逃せない場所があります。それは、1世紀前に建てられた末日聖徒の礼拝堂です。この建物は、さんごでできていて、手塗りの石こう、赤いブリキの屋根、そして岩盤から27メートルの鐘楼が目につきます。島のどの建物よりも大きく高く、この小さな地域社会の中で教会が重要な位置を占めていることを象徴しているかのようです。青少年が集まるにはまさにうってつけ



の場所なのです。

若者たちは、ある者は釣り船で、ある者はモーターボートで島に到着すると、4つのグループに分けられました。各グループには、タカロア、マニヒ、タカポトの3つの島からやって来たさまざまな年齢層の参加者が交じっています。彼らは、自分たちのグループに、モルモン経から取った名前、イテル、ニーファイ、モルモン、ハゴツのいずれかを付けました。ハゴツはこの辺りの島々では皆に親しまれている英雄です。

タカロア島のシンシア・ツファリウア姉妹は、このように述べています。「最初は、友達と一緒にでないことがあまりうれしくなかったのですが、1日目を過ごしてからは、ほかの島の人たちと知り合うのはとても素晴らしいことだと感じました。」

マニヒ島のエリック・ヒーオ兄弟は、こう語っています。「ひとつの場所にこんなたくさんのモルモンが集まったのを、初めて見ました。」

奉仕の模範を示す。カンファレンスの中の輝かしいひとときは、奉仕をしている時でした。雨が強く降ったある朝を除き、若者たちは毎日数時間、島のいろいろな場所を清掃しました。紙くずを拾い、雑草や茂みを刈り、石ころを取りのけ、ごみを運び出しました。カンファレンスの間、船着き場に沿った海岸や村の墓地、教会の敷地や建物、それにゴミ捨て場と化し、醜く汚れていた地元のサッカー場までもがきれいに清掃されました。

ローレルの年齢のマーニ・テロオアテア姉妹はタカロア島出身です。彼女は真珠の核入れ(真珠を養殖するために、母貝の中に胎貝の貝殻でできたごく小さな核を入れる作業)の技術を日本で勉強していますが、この時ちょうど休暇で家に帰って来ていました。マーニはこのように述べています。「みんなが一緒になって掃除するのを見るのは最高でした。大して時間はかかりませんでしたし、来た時より帰る時の方がきれいになって、うれしかったで

す。」マーニは別の教会に集っている友達、ヒーナ・デクスターを連れて来ました。彼女は、末日聖徒ではないほかの何人かの参加者と同じように、末日聖徒はすばらしい人たちだという思いを新たにしました。

聖典で1日を始める。毎朝、食事の前に聖典の個人学習を行ない、朝食後、礼拝集会が開かれました。それから奉仕活動に移り、続いてスポーツや、「かにとやしの木」「犬と皮ひも」「泥棒と真珠」のような島特有のゲームを交えたグループ活動をしました。勉強や活動に一生懸命打ち込んだ後は、世界で最も美しいさんご礁の自然のままの礁湖で、無数の色鮮やかな熱帯魚やさんご礁に生息する好奇心旺盛ながらも無害なさめに交じってひと泳ぎし、気分転換を図りました。

朝の聖典学習と礼拝集会のほかに、ふたつのファイヤサイドと家庭の夕べの集会があり、ここでは信仰、道徳的な標準、聖典の勉強、目標設定、最後まで堪え忍ぶこと、優れた人物となること、伝道の準備、セミナーへの出席などの霊的な事柄が強調されました。ある話者はフランス領ポリネシアにおける教会歴史について短く話しました

が、初期の宣教師や会員たちの犠牲についても語り、福音を分かち合うために同じような犠牲を進んで払うよう若人にチャレンジしました。

証会で終わる。カンファレンスの終わりに、若者たちは、新しい友情のきずなが結ばれ、証が強められたこと、救い主について学びたいという望みを新たにしたことに対して感謝の気持ちを表わしました。それまであまり熱心に教会に通っていなかったある若者は、伝道に出たいという願いを持ったことを、このように語りました。「このカンファレンスではぐくんだ証をほかの人々と分かち合えるよう、自分の生活を整えたいと思います。福音がもたらす喜びを広めたいのです。」

真珠のように。このユースカンファレンスは、離島に住む人々に、さらにもうひとつの教訓を与えてくれました。忍耐すれば、困難な問題も祝福に変わることがわかったのです。それは彼らが礁湖で養殖している黒い真珠を思い起こさせます。胎貝の貝殻でできた小さな核は、母貝にとってはひとつの悩みの種です。しかし母貝は時間をかけ、正しく扱いながら、それを美しい真珠に変えていくのです。□

だれにコントロール されていますか？

七十人 ケネス・ジョンソン長老

ほんとうに自分の安全を任せられるのは自分だけです。

16歳の時、私はある印刷会社の見習い工として働いていました。職場には、バイクのことしか頭にない同僚がいました。当時流行のバイクはイギリス製で、彼も排気量の大きいバイクを持っていました。

ある晴れた夏の日、
彼が私にこう言いました。

「ぼくのバイクに乗ってみな

いかに。」私は、おもしろそうだな、と思い

ました。その当時は今のような革のスーツなどありませんでしたから、かなりの軽装でバイクの後ろに乗りました。オートバイは、町じゅうを走り抜け、やがて一直線の道路に出ました。間もなく彼が後ろに座っている私に話しかけてきました。「時速160キロで飛ばしたことがある？」

私は「ないよ」と答えました。

「じゃあ、行くぞ。」

「だめだよ。」

しかし、彼はエンジンを吹かし、猛烈なうなりを上げてバイクを加速させました。顔の皮膚が風圧で引きつり、時速150キロを超え160キロ近くになると、たたきつけるような風で着ているものがなびきました。私は人に自分の身の安全を任せるといふ招きを受け入れてしまったのです。事実そのために私は大変危険な目に遭ってしまいました。その日、私はこう決心しました。「もう二度と自分の命を人に左右させないぞ。」

若い男性、若い女性の皆さん、皆さんが人を招くときも、また人から招かれるときも、それらがすべてキリストのみもとへ行くための招きであるようにしてください。そうすることによって自分の生活を自分でコントロールするのです。

1959年に私はそのような招きを受けました。そのころ

はまだ、末日聖徒イエス・キリスト教会の存在すら知りませんでした。あるダンスパーティーで、私はひとりの若い女性に巡り会ったのです。彼女は福音の教えの中で育った女性でした。私はこの女性に引かれたのですが、ある時、次のようなことを言われました。「あなたと神殿以外の場所で結婚するなんて考えられないの。」私はその招きを受け入れ、福音を学びました。この女性は今、私の永遠の伴侶^{ほんりよ}となっています。私は彼女が差し伸べてくれた招きにこれからも感謝し続けるでしょう。私の人生を変えてくれたからです。

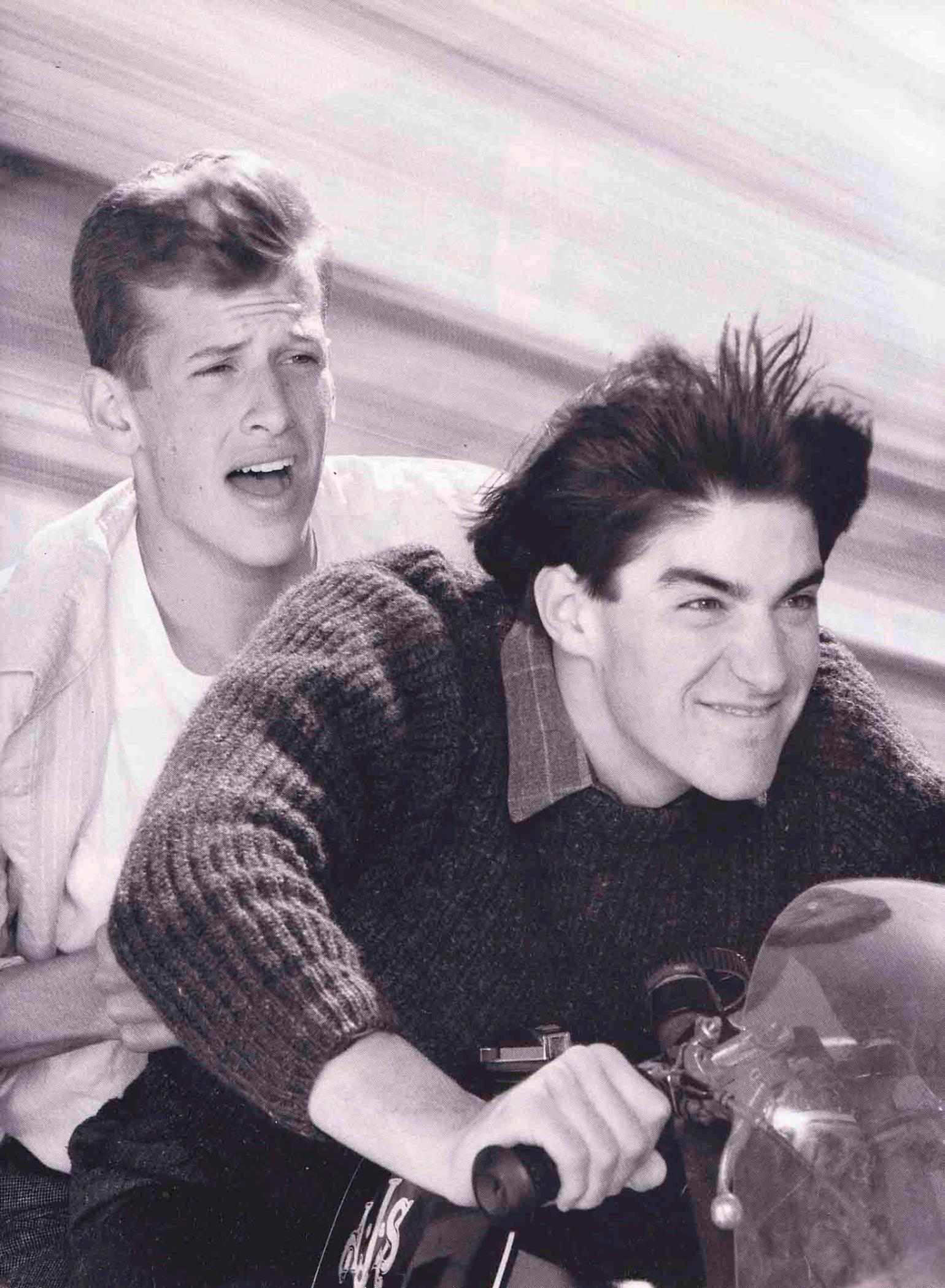
私たちには息子がひとりいます。私は息子が主の誓約の中で成長するのを見守ってきました。ともに神殿に参入し、息子が宣教師として伝道に出る姿も見ました。すばらしい伴侶と神殿で結ばれるのを見ました。このような息子の人生が招きとなって、キリストのみもとへ行こうという私の気持ちはさらに強められています。

若人の皆さん、皆さんは人々をキリストのみもとに来るように招く偉大な能力を内に秘めています。私にとって教会幹部としての召しよりもさらに神聖なものを皆さんに紹介しましょう。それは言葉では表現できないほど神聖な数々の誓約です。これらの誓約は私が教会幹部としての召しを受ける前に交わしたものであり、召しを終えてからも存続します。そして、人生の中で最も貴重で神聖な事柄に私をつなぎ留めてくれる力となっているのです。

私の母国イギリスだけでなく、世界じゅうの教会には、この偉大なみ業を推し進めるうえで、かつてだれも成し得なかったような方法で重要な役割を果たすであろう若い男女がおおぜいいます。キリストのみもとに来るといふ招きにこたえるとき、確かに彼らはそうできるでしょう。

私はイエスが生きておられ、イエスがキリストであること、主がこの教会を導いておられることを知っています。以上を私が知ることができたのは、これまで多くの善良な人々が主のみもとに来よう私を招いてくださったからです。そして私自身も人々を招くよう努めています。□

(この記事は、1990年4月の総大会での説教を基に書かれています)





家族の一致を図るには

私たちの家庭は、家庭の名に程遠いように思われます。ただ食べて寝るだけの場所です。私たちはよく言い争いをしますし、皆好き勝手なことをしています。私たちのような家族が一致するにはどうすればいいでしょうか。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

家族の問題を解決するという責務はあなただけの責任ではないことを忘れないでください。子供であるあなたには、今起こっている問題に対してどうすることもできない場合もあります。

しかし、家庭の状況をよりよくするためにあなたにもできることがあります。次のようにしてみてください。

耳を傾ける。話し合いが口論に終わってしまったときは、違った方法でお互いの考えを伝え合うようにしてみてください。家族がそれぞれの気持ちを語っているときにはよく耳を傾けましょう。そうすれば、家族もあなたの考えをもっと聞きたいと思うようになるでしょう。言い争いばかりせず、耳を傾ける姿勢を身につけることから始めるとよいでしょう。

話し合うきっかけを作る。ある父親は家庭の夕べの中で、1年のうち数回、家族の一人一人に、自分がいやだと感じていることを思いつかぎり紙に無記名で書き出させました。そして家族でそれらを読み上げ、これらの問題を解決するための目標を立てました。このようにともに目標を立て、それを達

成できるように助け合うのはとても楽しいことです。

兄妹を助ける。兄妹のしていることに関心を持てば、もっといい関係が築けるでしょう。お兄さんが何かのスポーツチームに入っていたら、その試合に行ってみてはどうでしょうか。お姉さんが合唱隊で歌っていたら、そのコンサートに行ってみましょう。その技量について批判したり、からかったりしてはいけません。いい面についてだけ話し、悪い面には触れないでおきましょう。

家族の活動を計画する。自分から率先して活動を計画したり、家族のみんなのために家庭の夕べを計画してもいいかどうか尋ねてみたりしましょう。両親に助けをもらうこともできますが、もし彼らが忙しいようならば、あなたひとりで計画してみましょう。家族が乗り気でなかったり、参加したくない人がいたりしてもがっかりしないでください。最初の試みが失敗に終わっても、腹を立ててあきらめたりせず、もう一度練り直し、やってみてください。

約束を守る。頼まれたことはすべてやり遂げましょう。両親から手伝うように言われたら、文句を言わずに手伝ってください。門限があるなら、それを守ってください。何時までに帰ると

言ったら、その時間までに帰っているようにしましょう。信頼の置ける人になることで、多くの口論を前もって防ぐことができます。

親切と思いやりをもって家族に接すれば、家庭の中の雰囲気は大きく変わることでしょう。

しかし、このような努力を重ねたとしても、あなたがどうすることもできない問題も、家族にはあります。教師やアドバイザー、また監督の助けを得られることも忘れないでください。家族が深刻な問題を抱えているなら、専門家によるカウンセリングが必要な場合もあります。

何よりも大切なのは、天父がいつもあなたの身近においでになり、祈りを聞き、慰めを与えてくださるということです。

読者からの提案

私の父は教会に活発でなく、それが我が家の争いのもととなっています。私は父のよい模範になろうと一生懸命に努力しており、父がそれを見てくれていると信じています。

でも、だれかが私の家での努力を台なしにしようとしているのではないかと考えてしまうこともあります。そう思うと、とても気がめいります。ある日曜日、教会の集会の後に妹にそのことを話し、家の中で内緒で家族のためになることを何か始めようと決めました。毎週ふたりで、家族の中からひとりを選び、その人と一緒に時間を過ご

すようにしました。励ましの言葉を書いたメッセージを残したり、姉が教会に着て行くドレスにアイロンをかけてあげたり、弟のサッカーのユニフォームを洗ってあげたりもしました。

だれがそれをやっているかは、すぐにみんなに知れてしまいましたが、今では全員が参加して家族のために何かをするようになりました。こうして、家庭の中に愛を感じられるようになりました。家族の行ないすべてに愛を感じているのです。

匿名希望

助けが必要なら、^{しんせま}親戚や友だち、監督に話してみたらどうでしょう。さらに、感じていることを全部、両親に話してみてください。あなたが家族をどんなに愛しているかを伝えたり、示したりすれば、彼らのあなたに対する愛も深まるはずです。



フィリピン、
トゥゲガラオステ
ーキ部
カボガン・イザベ
ラワード部
オーデクサ・D・
フロゴソ(12歳)

家族がもっと親しくなれるような特別な活動を計画してみてもどうでしょうか。一緒にピクニックに出かけるといった簡単なものでもいいと思います。大切なのは、互いに話し合い、もっとよく知り合うための時間を取ることです。私たちが家族とともに過ごすとき、どんなにすばらしい家族であるか、またなぜこんなに家族を愛しているのかを思い起こすことができます。

東京南ステーキ部
渋谷ワード部
御園智子(16歳)

「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない。」デビッド・O・マッケイ大管長が語られたこの言葉は真実です。真の成功を収めるには、家族を強めるためにどんな努力もいとわずに行なう必要があります。話をする時間を取ることさえもむずかしいかもしれませんが、あなたがまず家族の必要に気づき、彼らを愛するようになれば、彼らもその模範に倣ってもっと互いに愛し合うようになるでしょう。



フィリピン、
マロスステーキ
部
ハゴノイ支部
マリア・ゴルダ・
メイール・ビクト
リア・D・ファブ
リカンテ(19歳)

家族を^{ゆる}赦してあげてください。もしだれかが傷ついたり、いやな思いをしたために、家族の中にもめ事があったときは、互によく話し合っ、謝る必要があります。そしてお互いに赦し合い、もっと思いやり深く、愛情深くになれるように努力してください。もし、家族があなたのことを赦してくれなくても、とにかくあなたは赦すように努めてください。愛こそ、家を真の家庭にする力です。もし怒りを抱いたままなら、愛を感じられないでしょう。フィリピン、フィリピン・レガズピステーキ部
レガズピ第1ワード部
マリア・セシリア・ラチューナ(16歳)

私たちは若い女性の会長から、自分の両親に愛していると伝えるようにというチャレンジを受けました。私と姉にとって、それはとてもむずかしいチャレンジでした。両親は私たちから愛されていることは知っていましたが、

私たちは一度もそれを言葉に出して言ったことはなかったからです。

そこで私たちは、夕食の準備をして、両親のナプキンに、ふたりを愛していると書くことにしました。ふたりは随分驚いていましたが、とても喜んでくれました。それからというもの、毎日、両親に愛していることを伝えるようになりました。

家族の一致をもたらす^{かぎ}鍵は家族の愛だと思えます。祈ってください。そうすれば天父は、あなたが家族へ愛を示す方法を見いだせるよう助けてくださいます。



チリ、
チリ・ファルペン
ステーキ部
ビオビオワード部
ダニア・ゴンザレ
ス・S(19歳)

私の両親は教会に活発ではありません。私は伝道に出ましたし、妹も現在伝道中ですが、両親は教会に集おうとはしません。これはとても悲しいことです。でも私たち子供は両親に模範を示し続けています。

我が家で争いが起こったときには、キリストの模範に従って、言い返さずに柔らかい答えによって憤りを抑えるように努めています。(箴言15：1参照)私たちは両親を愛しており、いつの日か彼らが教会に戻り、永遠の家族を築きたいという気持ちになってくれるよう祈りを^{こま}捧げ、断食しています。



ブラジル、
コンタジェム地方
部
リアチョワード部
ソライア・ファグ
ーデス(25歳)

自分自身を変えていってください。家族のうまくいっていないところだけを見ていて、いいところを見過ごしにしているのではないのでしょうか。家族がいいことをしたときには褒め、あなたの助けを必要としている家族には、いちばん先に手を貸してあげてください。

家族に問題があるときに、あなたが落ち着いて、忍耐強く、理にかなった態度を取るなら、家族のあなたへの態度は変わっていくはずですよ。

ひとたび家族からの信頼を得られれば、祈りや家庭の夕べといったよい習慣を家族の中に築き始めることもできるでしょう。



フィリピン、
ナガシティー
マリア・セシリア・R・シロス
(16歳)

いつも幸せな顔をして模範を示してください。あなたが家族の気持ちを和らげる存在になれば、家族もあなたの幸福そうな態度から影響を受け、幸せになっていくはずですよ。

サモア、サモア・ウポル西ステーク部
ファレラタイ支部
アラバティ・ロイ・パートウイトウイ
(26歳)

私の両親は経済的に多くの問題を抱えていました。それが原因で家庭的にもたくさん問題が生じていました。兄と私は、父が話してくれるまで両親がどれだけ苦しんでいるかわかりませんでした。私たちは、請求されている金額をすべて支払うために家族で目標を立て、少しでも助けになればと夏の間アルバイトを見つけて働きました。父は、お金の行方がよくわかるように

ある月の支払いの一部を私たちに任せたりすることもありました。

両親が私たちのためにどれだけ多くの犠牲を払っているかを知って、私たちの両親への尊敬の念はとても深まりました。また、私たちが喜んで両親を助けようとしているのを目にして、両親も私たちを尊敬してくれました。おかげで今、私たちはずっと幸せになりました。

匿名希望

祈って、祈って、祈ってください。家族を強めるための最良の方法は祈ることです。家族を助けるにはどうしたらいいか靈感を受けられるように祈ってください。また家族に働きかけて、一緒に祈れるようにしてください。主は私たちを愛しておられ、祈りにこたえてくださいます。



ハワイ、
ホノルル伝道部
ジェラルド・
ソリタ長老(24歳)

私はメルキゼデク神権者として、家族に自分の証^{あかし}を分かち合っています。家庭にあつて神権を持っていることはとても助けになります。教会についての思いを語るとき、よい模範を示して、活発でない私の家族を教会に戻そうという気持ちになります。



コロンビア、
カリステーク部
ロス・アルメン
ド・ロスワード部
ヒルベルト・モ
レア・サラサール
(20歳)

よりよい家庭を築き上げていくうえで、家族一人一人が大切です。私の家族は毎週集まって家族とともに過ごす時間を計画しています。一緒に計画することによって、お互いに助け合い、一人一人が果たすべき責任についても理解し、思いやれるようになります。まずあなたから、家族への理解と思いやりを深めるよう努めてください。



フィリピン、
カバナチュワン
ステーク部
タラベラワード部
ロベナ・C・リ
ベラ(20歳)

下記の質問に対する皆さんの意見をお待ちしています。締め切りは1994年8月1日です。あて先は下記のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS

International Magazines
50 East North Temple
Salt Lake City, Utah 84150
U.S.A.

氏名、年齢、住所、所属ステーク部/ワード部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。こちらで翻訳いたします。手書き、ワープロ、いずれも可。できれば写真を同封してください。ただし返却はいたしません。匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。お便りがすべて採用されるとは限りません。あらかじめご了承ください。

質問——断食するように勧められていることはわかっています。今まで断食してみましたが、あまり得るものなかったように感じます。どうしたら断食をもっと意義あるものができるでしょうか。□



94歳で、新しく生まれて

ルイーゼ・ウルフ

1989年3月、私は重い病気にかかって、ピスマールの病院に入院していました。ピスマールは、当時はドイツ民主共和国(東ドイツ)の都市でした。94歳になっていた私はほんとうに頼りない気持ちになって、生きる望みをすっかり失っていました。天の家に連れて行ってくださるように、いつも神に祈っていました。

私の苦しみを知って、娘がハンブルクから見舞いに来てくれました。そのたびに娘は私に新鮮な希望を持たせようとし、忍耐するように励ましてくれました。そして最後には私を退院させて、娘と義理の息子の自宅に引き取ってくれたのです。

娘の強さと自信に、私はいつも感心していました。娘にそのことを言うと、彼女は日曜日ごとに教会に行っているせいだと言います。娘は随分前に末日聖徒イエス・キリスト教会に入っていました。でも、私は彼女の新しい宗教にあまり興味がありませんでした。自分のプロテスタント教会の信仰を捨てようとは思わなかったのです。

ところが私が娘の家に同居するようになったので、娘は私に教会のことを話したり、聖典を読んで聞かせたりするようになりました。ふたりの女性の宣教師も呼んで、いろいろなことを聞かせてくれました。この素晴らしい

上——福音を教えてくれた宣教師のサエテリ姉妹(左)、ヤング姉妹と一緒にルイーゼ。ルイーゼの右にいるのは娘のマリアンネ・ライメルズ姉妹。

姉妹たちの訪問は私を喜ばせました。そして私は、彼女たちとのレッスンを通じて、ついに末日聖徒イエス・キリスト教会が唯一まことの教会であるという確信を得たのです。

1989年8月27日が、私のバプテスマの日になりました。94歳の私がヨハネによる福音書にあるように「新しく^{うま}生まれ」(3:3)たのです。

すばらしい変化がすぐに訪れました。苦痛を耐えなければならぬのは相変わらずでしたが、終わりまで忠実であるように助けてくださいと主に向かって祈れるようになったのです。私たちが天に戻る時期は天父がご存じであるということも、わかるようになりました。私がこの地上でバプテスマの誓約を交わすことは、天父のみところだったのです。□

ウルフ姉妹はバプテスマを受けて1年半後に安らかに亡くなりました。

祝福師の祝福から力を得る

「私」は祝福文を読むのが大好きです。読んでいるといつも、故郷からの手紙のように、愛され受け入れられていると感じるからです。」スーザンはこのように述べています。

父親は家族の族長として、家族に神権の祝福を受けることができます。しかし、ステーキ部の祝福師は、ヤコブが12人の息子に与えたのと同じような(創世48-49参照)神権の祝福を与える権能を持っています。ステーキ部の祝福師は私たちの血統を宣言し、天父が私たちにお与えになる個人的な祝福を明らかにし、私たちが果たすべきいくつかの責任を示すように聖任されています。教会歴史部で記録され、ファイルに収められるのは、ステーキ部の祝福師によって与えられた祝福だけです。

祝福師の祝福を 受けられるように備える

祝福師の祝福の恩恵にじゅうぶんにあずかるためには、それを受けるふさわしさを身につけ、準備する必要があります。まず、監督または支部長と面接し、推薦状をもらいます。次に、ステーキ部の祝福師と約束を取ります。最後に、祝福を受けるために霊的な備えをします。エリンは当時を思い出して、このように述べています。「祝福を受けに行ったころ、心に引っかかっていた疑問がいくつかありました。何週間も霊的にふさわしくなるために備え、さらに断食と祈りをもって祝福に臨みました。すると、それらの疑問に対する導きと靈感を受けたばかりでなく、その時には考えてもみなかった、別の事柄についても答えを受けたので



ILLUSTRATED BY DILLEEN MARSH

した。」

祝福師の祝福はそれぞれ独自のものであり、定期的に読み返せるように、私たちは祝福文の写しを受け取ります。

●まだ祝福師の祝福を受けていない人は、それを受けるために、何をしたらよいでしょうか。

祝福師の祝福は平安をもたらす

祝福文は、神の娘としての皆さんの永遠の特質と可能性をかいま見る機会を与えてくれます。ある母親は、このように記しています。「祝福を受ける子供たちに付き添って驚いたのは、それぞれの子供に与えられた祝福がとても個人的で一人一人違ったものだったことです。神様は私以上によく私の子供たちのことをご存じなのです。」

親しい自分の家族に祝福文の内容について話したり、読んで聞かせたりするのなら適切かもしれませんが、祝福文は神聖なものですから、それについ

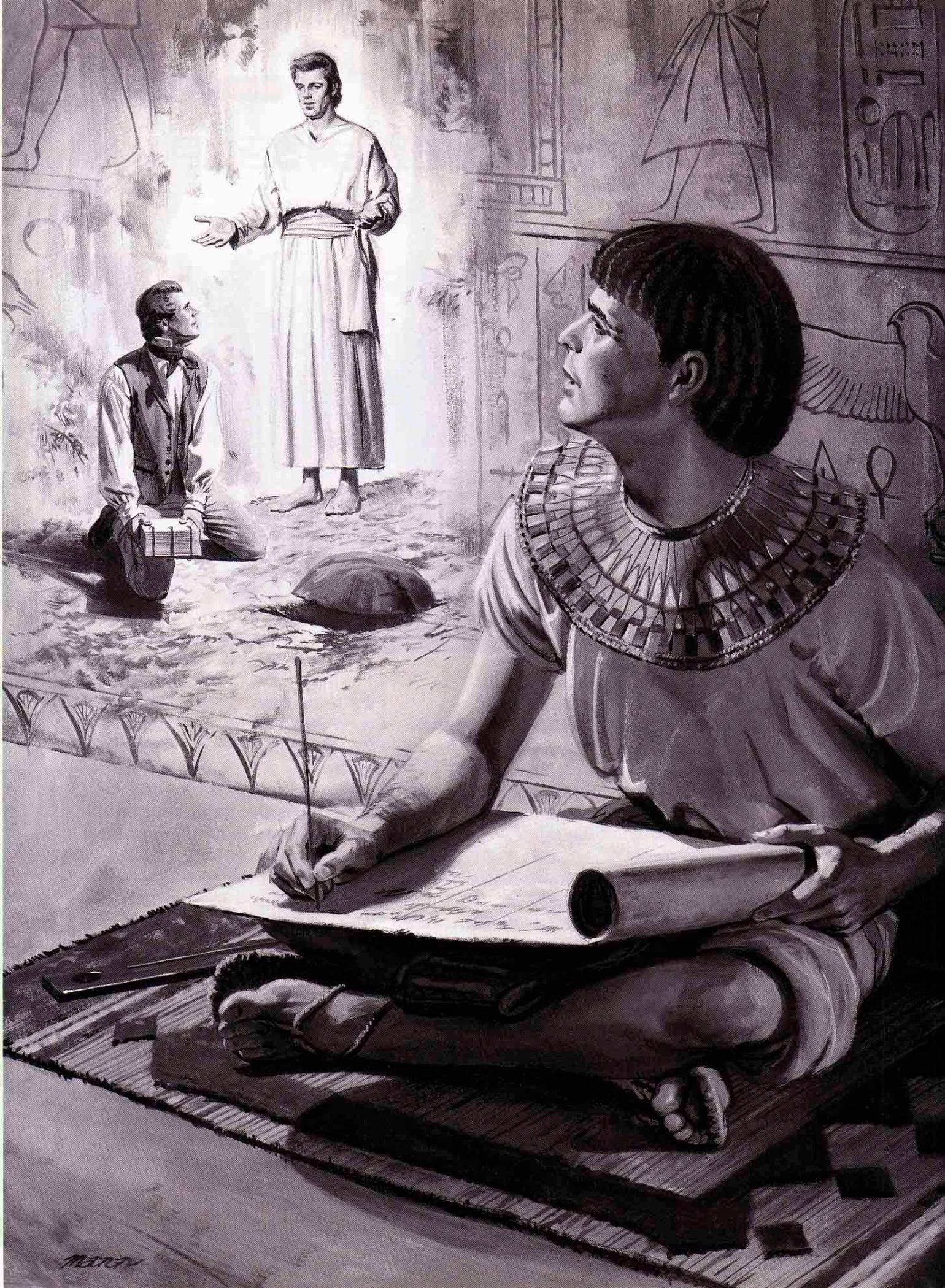
て軽々しく話し合ったりすべきではありません。ほかの人の祝福文と比べたりするのもいけません。祝福文の長さや言葉遣いは重要ではありません。

祝福師の祝福には、私たちの身の上にかかるすべての事柄が詳しく述べられているわけではありませんが、明確で個人的な導きを与えてくれます。ヘザーはこのように述べています。「伝道から帰った時、私には選択しなければならぬ事柄がたくさんありました。そこで、祝福文を祈りの気持ちで読んでみました。すると、答えはそこに記されていました。私の進んでいる道がどこへ通じるのか、まだはっきりとはわかりません。でも、主が私に行なうように望まれていることをしていると確信しています。」

トーマス・S・モンソン副管長はこのように語っています。「祝福師の祝福には、文字どおり皆さんの永遠の可能性について書かれた記録の一部が述べられているのです。……〔それ〕は、現世において平安へと導くパスポートであり、天の家へと正しく導く光の羅針盤です。」(『祝福師の祝福は光の羅針盤』「聖徒の道」1987年1月号, p. 69, 70)

祝福師の祝福には、勧告や約束、確証などが含まれています。私たちが持っている霊的な賜や才能、ときには召しが述べられています。祝福師の祝福は、愛する者を失ったときに私たちに慰め、苦しいときには心のいかりとなり、正しい道を選ぼうと日々努力するときに私たちに力づけてくれます。

●私たちが受けた祝福師の祝福をより一層活用するには、どうしたらよいでしょうか。□



予言者たちと ジョセフ・スミス

ジョセフこそ、この最後の神権時代における傑出したキリストの証し人です。

ロバート・L・ミレット

モルモンの予言者ジョセフ・スミスは、19世紀の人々にあまり理解されませんでした。まして20世紀末の現代人には困惑の種でしかないかもしれません。かつてジョセフは「だれも私の経歴を知らない」と語ったことがありました。「私はそれを語ることができない。私は決してそれをしない。私の経歴を信じないからといって、私はだれをも責めはしない。もし私に今の経歴がなかったとしたら、自分自身それを信じなかったであろう。」（「教会歴史」6：317）

ジョセフ・スミスは主イエス・キリスト同様、生涯ある種の孤独に耐えるよう召されていました。成長して予言者となったこの農夫の息子が、聖なる贖い主^{あがな}について個人的に証^{あかし}することができたのも、たとえ程度の差はあってもジョセフ自身がイエスと同じように「悲しみの人

主はエジプトのヨセフに言われた。「われは汝^{なんじ}の子孫より一人の優れたる聖見者を起す。この者は汝の子孫の中にて大いに尊ばるべし。……見よ、われは汝の子孫の書物を汝の子孫に書き伝うることをこの聖見者に任ず。」（IIニーファイ3：7，18）

で、病を知っていた」（イザヤ53：3）からです。ジョセフの生涯は、迫害と疑惑に特徴づけられていただけではなく、みずからは真昼の輝かしい光の中を歩みながら、夕闇^{ゆうやみ}を歩くことに甘んじている人々を導く責任を持つ者だけが知る孤独の生涯でもあったのです。

困難な時期に妻エマにあてた手紙の中で、ジョセフは「神こそ私の友である」と語っています。「私は神にあって慰めを見いだすであろう。私は命を神のみ手にゆだねている。そしていつでも神の召しに従う備えができています。私はキリストとともにいたいと願っている。命を惜しいとは思わない。ただ主のみこころを行なうだけだ。」（「ジョセフ・スミスの私書」ディーン・C・ジェシー編、p. 239, 句読点と綴り訂正）このような言葉から、ジョセフの謙遜^{けんそん}さと成功の基となっていた秘訣^{ひけつ}をかいま見ることができます。つまり、自分が全能の神の光の中を歩んでいることをジョセフ自身は知っており、それをほかのすべての人にも知ってもらいたいと願っていたのです。彼こそ全能の神から遣わされて誓約を伝える者であり、神だけでなく、ジョセフ自身もそのことを知っていました。

古代の予言者たちにも知られていた

時満ちたる神権時代は主のみ業の成就をもたらすように定められていました。この時代は神が「天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされた」（エペソ1：10）時であり、古代

の聖徒たちはこの時代の到来を期待し、待ち望んでいました。彼らはこの最後の神権時代とその指導者を知っており、またそれに言及もしています。

ブリガム・ヤング大管長は、ジョセフ・スミスに関してこのように述べています。「地の基が据えられるはるか以前に、彼ジョセフ・スミスは、この世の最後の神権時代に、神のみ言葉を民にもたらし、また神の御子の神権の全き鍵と能力を受け人となるよう、永遠の計画の中で宣告されていた。主はその目を彼と彼の父親に、また祖父からアブラハムに至り、アブラハムから洪水、洪水からエノク、エノクからアダムに至るすべての彼の先祖の上に置かれた。主は先祖アダムからその人が誕生するまで、一族であるこの血統を見守ってこられたのである。ジョセフ・スミスはこの最後の神権時代を管理するよう、永遠の中で予任されていた。」(「ブリガム・ヤング説教集」ジョン・A・ウィットツォー編, p.108, 下線付加)

そのほかの予言者たちも末日にジョセフ・スミスが召されることと、ジョセフが末の日に果たすきわめて重要

な役割について知っていました。いにしへのヨセフも(IIニーフアイ3:7, 18参照)、復活を遂げ、ニーフアイ人にみ姿を現わされた救い主も(IIIニーフアイ21:9-11参照)、そしてモロナイ(モルモン8:14-16, 23-25参照)とバプテスマのヨハネ(ジョセフ・スミス訳ヨハネ1:20-22参照)も皆、メシヤの再臨の前にあらゆるものを回復する偉大なエライヤス、つまり偉大な予言者について語っています。(「予言者ジョセフ・スミスの教え」[英文] p.364参照)

ジョセフ・スミスは別な意味でも古代の予言者たちに知られていました。それは、ジョセフがこの世での召しを果たしている時、昔の予言者たちによって教え導かれていたからです。イエス・キリストを除けば、ジョセフ・スミス以上に優れた聖典の権威はかつてこの世に存在しませんでした。聖典を読むことと、その著者から個人的に教えを受けることの相違は明らかだからです。世の学者や宗教指導者の中で、アダム、エノク、ノア、モーセ、エライジャ、バプテスマのヨハネ、ペテロ、ヤコブ、そしてヨハネと直接顔を合わせて話をしたと言える

福音の神権時代(年代は概算による)

アダム, 紀元前4000年



エノク, 紀元前3400年



ノア, 紀元前2900年



アブラハム, 紀元前2000年



福音の神権時代とは「主が地上に少なくともひとりしもべの権能ある僕を置いておられる時代を指す。彼らは主から聖なる神権と鍵かぎ,そして地上の人々に福音を広める神聖な召しを授かっているのである。その時には福音が再び明らかにされる。」アダム以来、多くの福音の神権時代が存在した。その中には、エノクやノア、

アブラハム、モーセ、そして主ご自身によって導かれた神権時代がある。そのほか、ニーフアイ人やジェレド人、イスラエルの失われた支族の中などにも福音時代が存在した。それぞれの時代に教えられた救いの計画は同じものだが、各神権時代はそれぞれ特有の役割を担っていた。たとえば、イエスによって導かれた神

人がほかにいるでしょうか。ニーファイやモルモン、モロナイ、そのほかの古代アメリカのヘブル人たちから学んだ知識ゆえの権威をもって、古代アメリカの生活を語れる人がほかにいるでしょうか。（「説教集」13：47；17：374；21：94，161—164；23：362参照）ジョセフを訪れた天からの訪問者の多くはジョセフの頭に手を置き、神権の鍵と権能を授けたのでした。（教義と聖約128：20参照）

ジョン・テイラー大管長はこの数々の出来事を要約して、次のように言っています。「ジョセフ・スミスは第一の位において、永遠の世界の神々の教義に従い、人々に生活の原則を紹介するため全能の神より任命された。……彼がみずからのものとして身につけていた原則は、主と……古代の予言者や使徒たちとの交流によって彼に与えられたものであった。たとえばアブラハムやイサク、ヤコブ、ノア、アダム、セツ、エノク、それにイエスと御父である。また、アジア大陸に住んでいた使徒たちだけでなく、この大陸に住んでいた使徒たちとも交流があった。ジョセフ・スミスは、私たちがお互いを知ってい

ると同じように、これらの人々についてよく知っていたようである。なぜだろうか。それは、時満ちたる神権時代と呼ばれ、古代の神の僕たちがその呼称をもって呼んでいた神権時代が、彼自身の手によって開始されたからである。」（「説教集」21：94，下線付加）ジョセフ・スミスは、聖典もその教えも知っていました。またその聖典を書き残した予言者たちを知っており、何より聖典の中心的存在である主イエス・キリストについて知っていたのです。

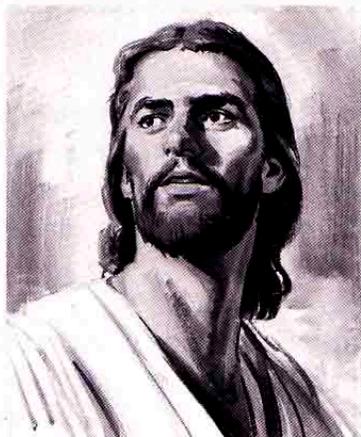
神権時代の長

使徒パウロは「預言者の霊は預言者に服従する者である」（Iコリント14：32）と説明しています。つまり、全能の神の神託者、代弁者として召された人々にも序列があるのです。

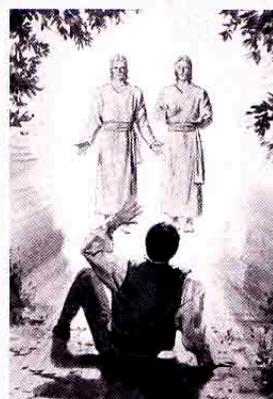
ブルース・R・マッコンキー長老はこのように言っています。「まず主イエス・キリストで始まり、アダム、ノアと続く。そして神権時代の長が来る。それからかな

キリスト、時の絶頂

モーセ、紀元前1450年



ジョセフ・スミス、1820年



権時代では、主がこの世で^{あがな}贖いに必要な条件を満たされた。予言者ジョセフ・スミスによって導かれた神権時代は、「時満ちたる神権時代」と呼ばれ、この世の

始まりから主が推し進めてこられたご計画のすべてを成就される時代である。（LDS 聖書〔英文〕巻末聖書辞典の「神権時代」の項参照）

り距離を置いて予言者、使徒、イスラエルの長老たち、そして光と理解のみたまを持つ知恵深く、善良で賢明な人々の順に従うのである。」(1984年スペリー・シンポジウム「汝ら耳を傾けよ——教義と聖約に関する論文」より『今の代の人々には、汝によりてわが言を与うべし』p. 4)

アダムやエノク、ノア、アブラハム、そしてモーセやほかの予言者と同様、ジョセフ・スミスもまた神権時代の長でした。神権時代の長は、神の知識と権能を地上の人々に伝える仲立ちとなります。神権時代と呼ばれる時代であって、その時代の人々に、イエス・キリストの福音、すなわち救いと昇栄の計画を再び明らかにし、人を変える神の権能とそれに伴う救いの誓約および儀式が与えられるよう、神の器として働くのです。また、神権時代の長はその時代であってイエス・キリストを証する傑出した予言者となります。それは彼が見聞きし、感じ、体験したことを通じて、キリストを直接知っているからです。また、神権時代の長は救いの計画の中心に位置しており、彼の証の力を媒介にして人々が主を知り、みたまの光の恩恵に浴するようになるため、神権時代の長の召しと地位は彼に従う人々の証の対象ともなります。

マッコンキー長老はこう指摘しています。「予言者は皆キリストの証し人である。神権時代の長はすべて、各々の時代でキリストについて啓示を受ける者となる。そして、それ以外の予言者や使徒は神権時代の長の意志を反映する者であり、こたまであり、解釈者となる。つまり、神がその永遠のみ言葉を世に送るためにその時代に召した者を通して啓示された事柄を、世の人々の間に響かせ、解釈し、明らかにすることだけが彼らの役割なのである。」(『今の代の人々には、汝によりてわが言を与うべし』pp. 4—5)

確かに、私たちは御子のみ名によって御父を礼拝します。また、主キリストは御父に通じる唯一の道であり、キリストのほかには人間に救いを与えることのできる名は決してありません。しかし、これまで検証してきたように、神権時代の長はキリストについて啓示を受ける傑出した予言者です。このため、キリストを証することが御子をこの世に遣わされた御父を証することと明らかに同じであるように、ジョセフ・スミスを証することは、彼を遣わされたイエス・キリストを証することにもなるのです。見方を変えると、ジョセフ・スミスを公然と否定し、その予言者としての召しを証する、霊への働きかけ

に心を閉ざすことは、とりもなおさず彼を遣わされた主ご自身を拒むことと同じなのです。イエスは使徒に向かってこう言われました。「あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。そしてわたしを拒む者は、わたしをおつかわしになったかたを拒むのである。」(ルカ10:16。教義と聖約1:38; 84:36; 112:20と比較)

ジョセフ・スミスと福音の回復を純粹にしかも熱心に証する人には、天の力、つまり私たちの礼拝する主から来るえりすぐりの霊的な祝福が伴います。そのような祝福は、確かに天がその証に賛同していることを証明するものと言えましょう。ジョセフ・スミスのおいに当たるジョセフ・F・スミス大管長はこう言明しています。「私はイエス・キリストが神であることを信じている。なぜならば、私は……ジョセフ・スミスの証を通して、イエスがキリストであり、生ける神の御子であることについて今まで以上に確かな知識を持つに至ったからである。教義と聖約には、ジョセフ・スミスが御子にまみえ、御子の声を聞き、御子より指示を受けたこと、それらの教えに従ったことが記されている。」(「福音の教義」p. 473, 下線付加)

「イエス・キリストを除くのほか……何人よりも」

末日を迎えた地上におけるジョセフ・スミスの比類ない役割をかいま見ることは、むずかしいことではありません。誇張しないことで知られていたジョン・テイラー長老は、感謝と称賛の気持ちを込めて次のように書いています。「ただイエス・キリストを除くのほか、この世に生を受けたる何人よりもこの世に於ける人類の救いに尽したり。」(教義と聖約135:3)エノクよりも人類の救いに尽くしたというのでしょうか。アブラハムやヤコブ、モーセよりもでしょうか。ジョン・テイラー長老の真意はどこにあるのでしょうか。以上の質問に答えるために以下の可能性について考えてみましょう。

1. ジョセフ・スミスは、神のみたまがすべての人に注がれるとヨエルが予言した時代の正当な管理者として働きました。(ヨエル2:28—29参照)1823年9月、モロナイが初めてジョセフに現われた時、モロナイはこのヨエルの聖句を引用して「この事いまだ成就せずといえども間もなくあるべきなり」(ジョセフ・スミス2:41)と言っています。最初のモロナイの訪れから数年間、確かに多くの人が夢を見、幻を見ました。(ヨエル2:28参



「主われらの^{まこと}の^め眼に手を触れたまいたれば……^{しか}而して、われら御父の右に御子の栄光を見、その無上完全なるものを受けたり。またわれら、^{まこと}聖き天使らおよび御座の前に聖とせらるる者たちが神と子羊とを……永遠に……^{まこと}拝むを見たり。」(教義と聖約76：19—21)

照)何よりも神のみたまが、永遠の真理を^{まこと}宣べ伝える業と、イエス・キリストの回復された福音の定める条件に従った人々の^{まこと}霊的な^{まこと}変貌を、推し進める力となってきたことが挙げられます。

それに加えて、みたまは信仰を持たない人々にも影響を及ぼしています。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、同じヨエルの予言を引用してから次のような洞察を加えています。「多くの偉大な発見がなされてきた。事実福音が確立されて以来、^{まこと}発明発見は以前にもまして急速に増加している。そして過去四半世紀の間に行なわれた^{まこと}発明発見の数は、^{まこと}学問復興と宗教改革以降モロナイが予言者ジョセフ・スミスを訪れた時までの数よりも恐らく多いであろう、と私は思う。」(「救いの教義」1：172)つまり、神のみたま(この場合はキリストの光)が、産業革命の時代から現代の情報時代へ向けて達成さ

れた急速な知的・科学的・科学技術的進歩の背景にあるのです。そして、ジョセフ・スミスがこの啓発と発展の時代を管理しているのです。

2. 私たちは神が引き続きその教会と王国を導いておいでになることに大いに喜びを感じていますが、現在私たちが教義として知っているもののほとんどはジョセフ・スミスを通して与えられたものです。「神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時」(使徒3：21)、すなわち福千年まで続く回復の時がジョセフの召しによって始まったのです。この時代は、時満ちたる神権時代と呼ばれています。ジョセフ・スミスは、「世の始めよりいまだ^{まこと}嘗て啓示せられずして、賢く慎みある人々にも明かされざりしことも、この時満ちたる神権の時代には小児にも乳のみ児にも明らかにせらるべし」(教義と聖約128：18；124：41も参照)と記されている事柄を、世の人々に知らせるために起こされたのです。

3. 死者の救いの業は、救い主が死後の世界つまり霊界を訪れられた時から始まりました。しかし、大背教の時代を終えた後、この業は最後の神権時代の責任となりました。考えてみてください！ ジョセフ・スミスとその後継者たちは、霊界で福音を教え、何十億人にも及ぶ天父の子供たちのために救いの儀式を執り行なう中心的な責任を担っているのです。

また、ブリガム・ヤング大管長は次のように力強く述べています。「ジョセフ・スミスは、この最後の神権時代の鍵を保有しており、現在幕のかなたで末日の偉大なみ業に従事している。……この神権時代に生を受けた男女は、いかなる人といえどもジョセフ・スミスの同意なくしては神の日の光栄の王国に入ることはできない。神権がこの世から取り去られた時からすべてのものがその終焉^{まこと}に達する時まで、人は男も女もすべて、神とキリストがおられる住居に入るためにパスポートとして、ジ

ヨセフ・スミス Jr. の証明書を手に入れなければならない。……彼が最後の神権時代の王国の鍵を、すなわち霊界を治める鍵を保有しているからである。

人は皆、この思いに慰めを感じるべきではないだろうか。だれもが……ジョセフ・スミス Jr. に……感謝する日が将来訪れるだろう。彼の使命は、この最後の神権時代に生きるすべての神の子らが、贖いを通して救われるようにすることなのである。」(「説教集」7:289, 下線付加)

賛... 辞

前に述べたように、ジョセフ・スミスの一生は、ある意味で主イエス・キリストの生涯と似通っていました。その悲劇的な結末までも一致しています。ジョセフ・スミスは主と同様、新しい誓約が回復されたという遺言が完全に効力を生じるようにその血を流したのです。(ヘブル9:16参照) 死の直前、予言者ジョセフは次のように言ったと言われています。

「疲れた。長い間暴徒に襲われ、苦しんできた。私よりはるかによくこの業を果たせると思っている兄弟たちも中にはいる。私はもうこの世から取り去ってくださるようにと主に願っている。もうこれ以上耐えることはできない。今こそ、この時代の人々への私の証をこの血をもって結び固めなければならない。必ずそうしなければならないのだ。なぜなら、この業は私が死ぬまで先に進むことはできないし、遺言は遺言者が死んで初めて効力を生じるのだから。人は私について語っていても、私が何者か知ってはいない。そして、私が神の王国で秤にかけられるのを見るまで、彼らが私を知ることはないだろう。その時こそ、私をあるがままに見て、私が何者なのかを知るのだ。」(メアリー・エリザベス・ロリンズ・ライトナー「予言者を知っていた人々」ハイラムとヘレン・メイ・アンドラス編, 1974年, pp. 26-27より)

また、ブリガム・ヤング大管長はこう証しています。「ジョセフ・スミスを非難してよしとされる人があるだろうか。……私は声を大にしてこう言う。イエス・キリストを除いて彼ほどりっぱな人物は存在しなかったし、これからも存在することはないであろう。」(「ブリガム・ヤング説教集」p. 459) ウイルフォード・ウッドラフ大管長も、「この時代のジョセフほど偉大な人間はいない。……彼の心はエノクのそれのように限りなく広く、

安息日にノーヴー神殿建設の手を休めた予言者ジョセフ・スミスと数人の教会幹部たちは、未完成ながら新しい神殿に近い木立ちで、集まった聖徒たちに説教をした。

その魂を理解できるのは神だけである」と語っています。(日誌, 1837年4月9日)

20世紀末に生きる末日聖徒として、今私たちが直面する重大なチャレンジのひとつは、ジョセフ・スミスの残した遺産に真実、忠実であり続けることです。詩篇の作者は、邪悪な者たちが信じる者の信仰の基を攻撃し、神の教会と王国に捧げる私たちの忠誠心の源にある基本的な真理を覆そうとするだろう(ジョセフ・スミス訳詩篇11:1-3参照)と断言しています。それは、この神権時代の基礎を築いた予言者、ジョセフ・スミスの名と働きを中傷するための、巧妙で悪意に満ちた企てという形で現実のものとなってきました。そして、このような企てはこれからも続くでしょう。しかし、天の神がジョセフ・スミスを召し、承認されたことを思い起こしてください。回復の予言者の名とイメージを汚そうとする者は、いずれ神のみ前でその行ないについて申し開きをすることになるのです。

ジョージ・アルバート・スミス大管長はこう言っています。「多くの者がジョセフ・スミスを軽んじてきた。しかし、そういう者たちは母なる大地を受け継ぐ者の中には数えられないだろう。そして汚名がいつまでも付きまとうであろう。だが、ジョセフ・スミスが身をもって体現した、神への忠誠、誉れ、尊厳は彼の名とともに決して廃れることはないだろう。」(ハロルド・B・リーによる引用, 「大会報告」1973年10月 [英文] p. 166)

ジョセフ・スミスは過去も現在も生ける神の予言者です。私は、主がジョセフの前にみ姿を現わして彼を召し、暗闇の中で何世紀もさまよっていた世の人々に御父と御子、そして救いの教義について明らかにする権能を授けられたことを知っています。御父と御子イエス・キリストと、おふた方の卓越した予言者、聖見者であるジョセフ・スミスへの感謝の心を証明するため、私たち一人一人がその信じるところに従って生きる決意と霊的な強さを主から賜われるように願っています。□

ロバート・L・ミレットはブリガム・ヤング大学の宗教教育部学部長で、古代聖典学教授も兼任している。



すべてのつながりを 知った夜

キャロリン・ジョンストン

10代のころ、姉のナンシーと私は、地元の教会に欠かさず集っていました。しかし、何か物足りなさを感じるようになり、ふたりでほかの教会にも目を向けてみることにしました。

その年の夏、姉と兄はカナダ国立博物館を訪れ、ある展示コーナーで足を止めました。そこでは、宣教師が「古代アメリカは語る」という映画を上映していました。映画を見た後、ふたりはモルモン経プレゼントの希望者名簿に署名しました。キリストがアメリカ大陸を訪れていたことを母と私に告げた時の姉の高ぶった声を、今でもよく覚えています。

やがて宣教師たちが姉にモルモン経を持って来て、教会についてもっと知りたいかどうか尋ねました。こうして私も姉とともに福音を学ぶようになりました。

姉と私がバプテスマを受けて1年余りたったころ、姉はルークという青年とデートをするようになりました。ルークはだれにも好意的で何にでも夢中になる陽気な人でした。姉と出会ったころのルークは、自分の生き方を模索しているところでした。姉が福音について話すと、ぜひ宣教師のレッスンを聞いてみたいと言ってくれました。ルークの妹のリオナードも福音の話に興味を持ちました。

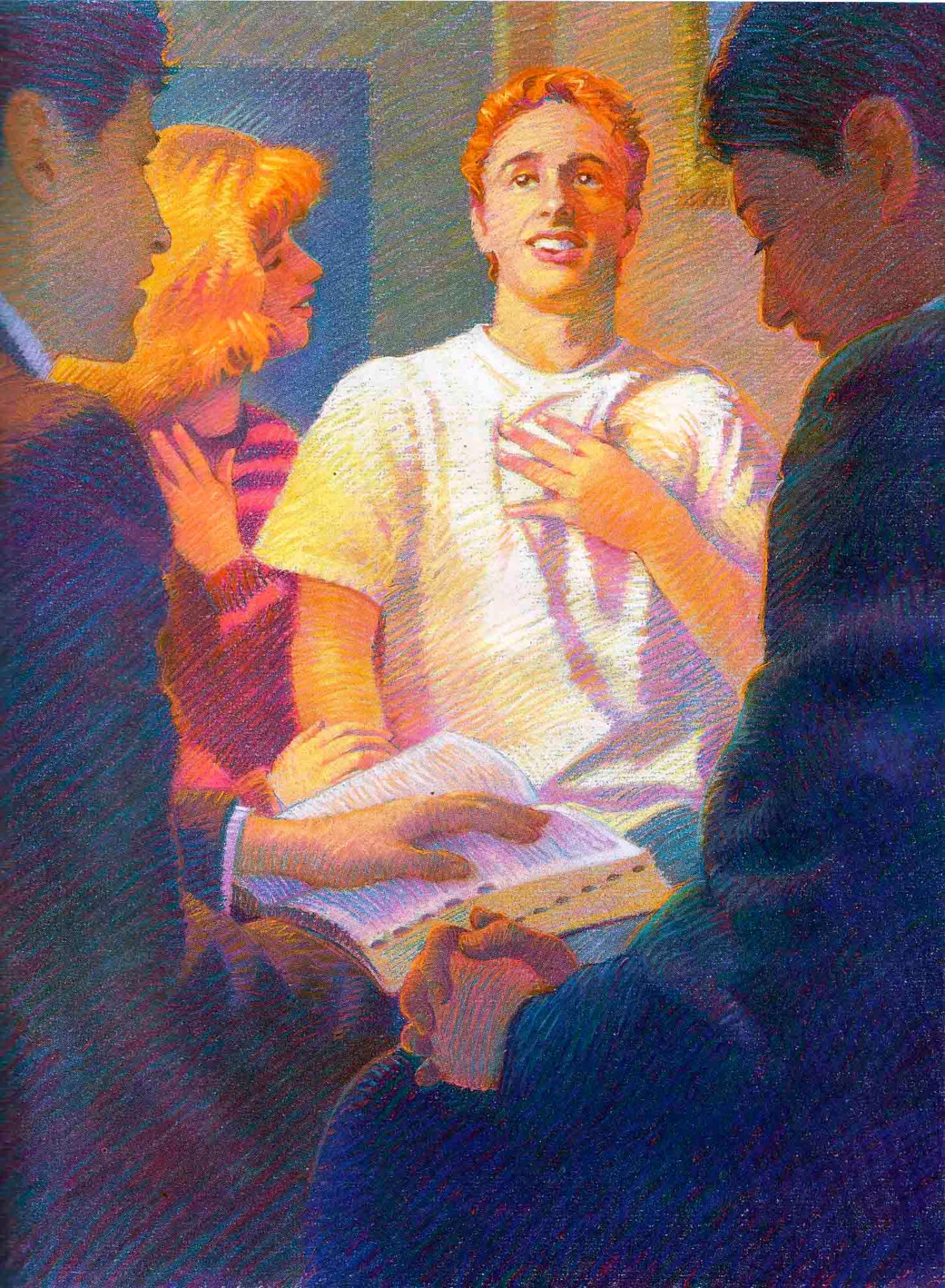
ルークとリオナードは宣教師から教わったことのほと

んどに納得しましたが、ただジョセフ・スミスを予言者として受け入れるのがむずかしいようでした。宣教師はふたりにこう言いました。「ジョセフ・スミスに対する証^{あかし}さえ得られれば、ほかのすべての事柄、つまりモルモン経、福音の回復、予言者が説いた福音の原則など、すべてのつながりがわかるでしょう。」

ルークとリオナードが次に宣教師と会った時、レッスンの焦点はジョセフ・スミスのことに向けられました。そして、ジョセフ・スミスが予言者かどうかを天父に順番に尋ね、その答えを聞くために少しの間静かに耳を澄ましてみては、と長老のひとりが提案しました。

祈っていると、主のみたまが私たち一人一人に、ジョセフ・スミスは主の予言者であることを証してくださいました。あの時に感じた平安と感動を私は決して忘れないでしょう。すぐにルークはバプテスマを受け、リオナードも両親の許可を待って数年後に教会に入りました。

ルークたちとともに祈ったあの夜以降も、福音の原則が真実であるというみたまによる証を何度も受けてきました。しかし、あの夜の経験は、私を愛してくださっている天父から初めて個人的な啓示を受けた思い出として、かけがえのないものとなっています。確かにあの夜、すべてのつながりを知ったのですから。□

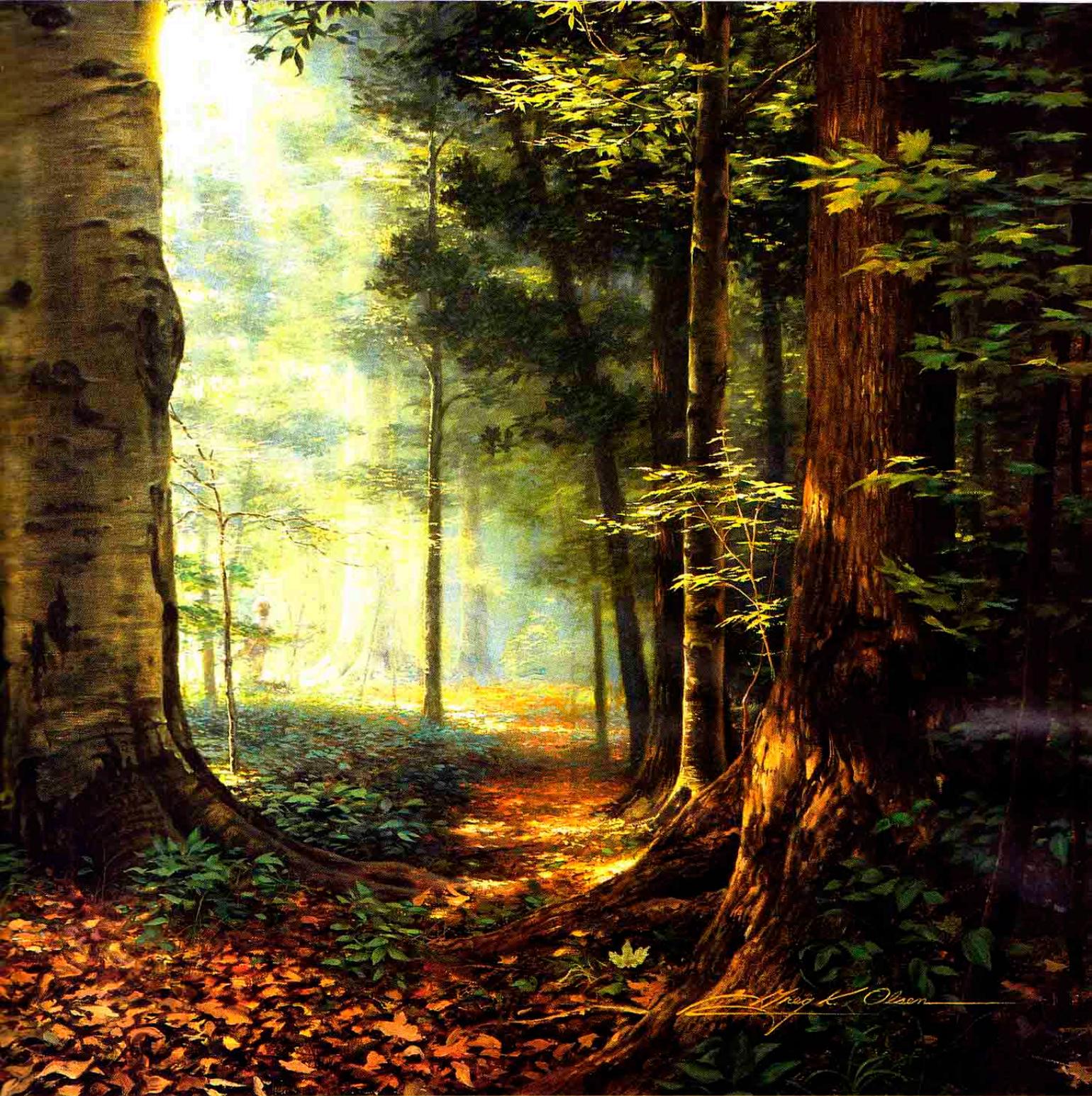




ジョセフ・スミス

回復の予言者

マービン・K・ガードナー



PAINTING BY GREG K. OLSEN

ジョセフ・スミスが、1820年の美しい春の日に森の中へ入って行った時、彼はまだ14歳の少年でした。

それからの24年間、今から150年前の1844年6月に38歳で殉教するまで、予言者ジョセフ・スミスは、父なる神とイエス・キリストが自分の前（あかし）にみ姿を現わされたことを証し続けました。さらに、ほかに天のみ使いの訪れや

顕現を多く受けたことも証しました。次のページからは、芸術家たちが描写した、こうした栄光に満ちた顕現の場面を、いくつか選んで紹介しましょう。

これらの一連の出来事には、それぞれ重要な意味があります。こうした出来事を通して、ジョセフ・スミスは主の器として働き、知識や真理、神権の権能や鍵の回復にかかわってきました。

つまり、末日聖徒イエス・キリスト教会は、既存の宗教団体から分派してできたものではなく、神とその予言者が、天のみ使いたちを仲立ちとして設立された教会なのです。み使いたちは、天からこの地上を訪れ、救い主がまだ地上でみ業を行なっていたところに主の教会に存在していた権威と教えを回復しました。





ILLUSTRATION BY TOM LOVELL



ILLUSTRATION BY ROBERT T. BARRETT

ジョセフがみずからの血で結び固めた以下の証は、彼が生涯のうちに救い主について述べた数々の証とともに、今も、世界じゅうの多くの国々でやむことなく鳴り響いています。「『主は実に生きたもう』……」

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」(教義と聖約76：22—24)

最初の示現, 1820年(pp. 36—37参照)「その光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とをもちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまひ、他のお一人を指して『これはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」(ジョセフ・スミス2：17)

天使モロナイの示現, 1823年(左)

「このお方は私の名を呼びたまひ『われは神の御前より汝に遣わされし者にしてわが名をモロナイと言ひ、』、『神は汝に一つの事を成し遂げさせんとして居りたもう』、また『汝の名は、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民の中に善くも悪しくも覚えられ……るべし』と言いたもうた。

またこのお方は私に、……金版に刻んだ一部の書物が埋められてあつて、その中には古代の住民に救い主がお伝えになつたままの完全な永遠の福音が載せてある、と告げたもうた。」(ジョセフ・スミス2：33—34)

金版を受け取るジョセフ, 1827年(上)「その中にととう、かの金版……を手に入れる期日がやって来た。……あの同じ天の使者〔モロナイ〕は次のような責任と共にこれらの品々を私に引き渡した。すなわち、私はこの品々について保管の責任を持たねばならない。……」

……しかし私に命ぜられた事がこれらによって成就するまでは、神の智慧



によってこれらは安全に私の手中にあった。」(ジョセフ・スミス 2：59-60)

アロン神権を授けるバプテスマのヨハネ, 1829年(左) 「一人の天からの使者が光の雲に包まれて天降り、私たちの頭上に両手を按き、次のように言

って私たちに神権を授けたもうた。
『汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。……』

この……使者はヨハネと名乗り、かの新約聖書の中でバプテスマのヨハネと呼ばれるヨハネと同一人であると言

い……たもうた。」(ジョセフ・スミス 2：68-69, 72)
メルキゼデク神権を授けるペテロ、ヤコブ、ヨハネ, 1829年(下) 「わが汝らに遣わして、汝らを聖職に按手任命し汝らの使徒たること、また汝らがわが名の特別の証人たることを確認し、また汝らが導きと教えを施す働きと、わが彼らに啓示せるところと同じものとの鍵を有つことを確認せしめたるかのペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人〔なり。〕」(教義と聖約27：12)

モルモン経が真実であること、神のみ声と天使により証される, 1829年

「このモルモン経を手にするあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる人々よ聞きたまえ。われわれは父なる神とわが主イエス・キリストの恩恵によって、この記録の誌してある版を見た。……また、われわれは神の御声が明らかに告げたもうたから、神の賜と能力によってこの記録が翻訳されたことも知っている。……また、一人の神の使が天降り、この版を持ってきてわれわれの目の前に置きたもうたから、われわれはその版とその版の上に刻んだ文字を確に見たことを謹んで明言する。われわれが目に見てこれらのことが真実であると証するのは、父なる神と、わが主イエス・キリストの恩恵によることを知っている。」(オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマー、マーテン・ハリス『三人の見証者の証言』「モルモン経」前書き)

御父と御子の示現, 1832年 「主われらの覚りの眼に手を触れたまいたれ

ば、われらの両眼開けて主の御栄あたりに輝やけり。

而して、われら御父の右に御子の栄光を見、その無上完全なるものを受けたり。

またわれら、聖き天使らおよび御座の前に聖とせらるる者たちが神と子羊とを拝み、しかも永遠に神と子羊とを拝むを見たり。」(教義と聖約76：19-21)

日の光栄の王国の示現, 1836年(p. 42参照) 「諸天が私たちに開かれ、私は神の日の光栄の王国とその栄光とを見た。……

私はその王国を受け継ぐ者たちが入るこの上なく美しい門を見た。それは、あたかも炎の輪のようであった。

また、輝く神の御座があつて、そこに御父と御子が座しておられるのを見た。

私はその王国の美しい街路を見た。それは金を敷きつめたかのようであった。

私は父祖アダムとアブラハムを見た。また、私の父と母、この世を去って久





ILLUSTRATION BY GARY E. SMITH

しい兄のアルビンを見た。」(日の光栄の王国に関する示現1:1-5)

カートランド神殿を嘉納される主, 1836年(右) 「われらの心より覆い取去られて覚りの眼開かれたり。

われらは、われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。而して、主の脚下にはこはくの如き色したる純金の床ありき。

その眼は燃ゆる炎の如く、頭髮白きこと清き雪の如く、その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き、その声は洪水の激する音の如し。」(教義と聖約110:1-3)

イスラエルの集合の鍵を授けるモーセ, 1836年 「天再びわれらに開けてモーセわれらの前に現われ、世界の四隅よりするイスラエル人の集合と北の国より十の支族を導き来ることの鍵をわれらに委せり。」(教義と聖約110:11)

アブラハムの福音の鍵を授けるエライヤス, 1836年 「この後よりエライヤス現われ、アブラハムの福音の神権の時代を委して言えるよう、われらと

われらの子孫によりてすべてわれらの後の代の人々祝福を受くべし、と。」(教義と聖約110:12)

この神権時代の鍵を授けるエライジャ, 1836年 「この示現閉じらるるや、また別の雄大にして栄光ある示現突開かれたり。すなわち、死を味わうことなく天に上げられし予言者エライジャわれらの前に立ちて曰く、

見よ、ここに於て正にその時は全く至れるなり。そは嘗てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主のたいなるおそるべき日の来らん前に、彼(エライジャ)遣わさるべし。

すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん、然らずば、全地は咀いをもて打たるべし、と言われしことを証する時なり。

この故に、この末日の神権の時代の鍵を汝の手に委す。これによりて汝らは、主のたいなるおそるべき日のすでに近づきて正に門口にあるを知るを得ん。」(教義と聖約110:13-16)□

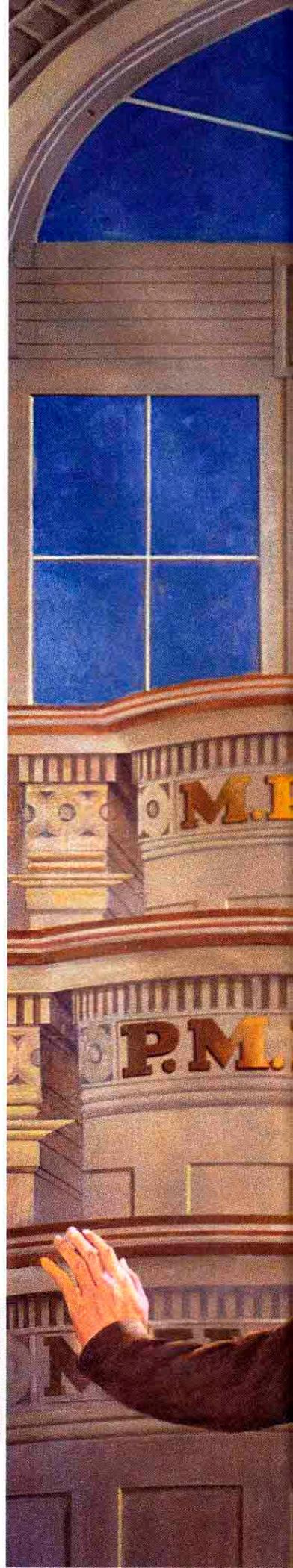


ILLUSTRATION BY THEODORE GORKA



「あのオランダ人、 どこへ行くんだろう！」

C・R・キルシュバーム

霧雨の中を、ゆっくりとした足取りで、私たちはホテルに戻りました。この2日間、妻と私は、ドイツの小さな教会にある記録簿から、妻の先祖の記録を書き写してきました。大変読みづらい手書き文字を判読する作業に、私たちは疲れ切っていました。幾世代にもわたる先祖のさまざまな名前にめまいを感じながらも、やっと1648年までたどり着いたのでした。30年戦争(1618-1648年。ドイツを中心に欧州各国が参戦した宗教戦争)の間に教会の記録簿が焼失してしまったので、これ以上さかのぼることはできません。そこで、今度は私の先祖を調べる



番だと提案しました。

祖父は、私たちの母国オランダへの移住者でした。それまで祖父は、今私たちがいる所から、そう遠くないドイツのゾーリングゲンという町に住んでいたのです。それが、祖父の生い立ちに関する唯一の手がかりでした。

私は妻に、今すぐ出発すれば明日の朝までにゾーリングゲンの教会の記録保管所に着けると言いました。そしてすぐに出発し、日暮れにはゾーリングゲンと思われる町に到着しました。早速ホテルを見つけ、ディナーテーブルに着くと、ウェイターがスープを運んで来ました。ところが、ウェイターに聞くと、そこはゾーリングゲン郊外のグラフラスという所だったのです。私たちは、直ちに注文をキャンセルして、驚くウェイターを尻目に飛び出し、車に乗り込みました。ゾーリングゲンの中心街までは、車で30分ほどでしたが、翌朝の時間を移動に費やすのが惜しかったのです。

ところが残念なことに、ゾーリングゲンのホテルはどこも満室でした。私たちは、仕方なくグラフラスに戻ることにしました。数時間後に私たちが戻って来て、ディナーの再注文をした時のウェイターの驚きようを想像してみてください。なぜ、あんなに急いで出て行ったのか説明すると、彼はためらいがちに笑みを浮かべ、ゾーリングゲンの教会記録はすべてグラフラスにあることを教えてくれました。しかも、その建物はホテルのすぐ隣だったのです。それを聞いて私たちは苦笑してしまいました。

夕食を済ませると、すぐに隣の建物に行ってみました。確かに、そこは教会の記録保管所でした。翌朝8

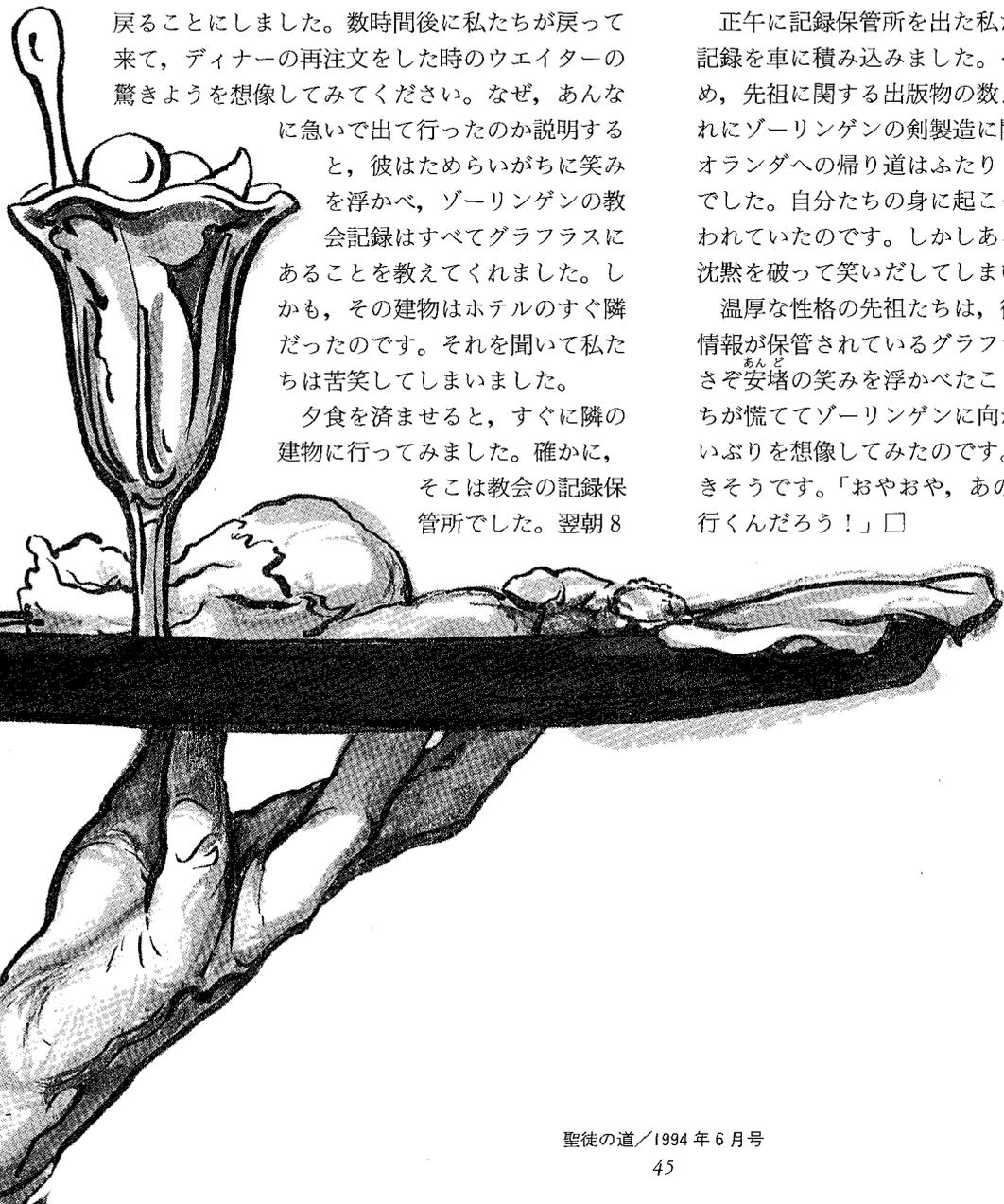
時から正午まで開いています。翌朝、保管所の業務が始まる前からドアの所で待っていました。保管所の責任者に自己紹介した時、その男性は「キルシュバームさん、ようやくお越しくださいましたね。ほんとうにうれしいですよ」と言いました。

間もなくわかったことですが、以前の責任者が、1500年代までさかのぼってキルシュバーム家に関する詳細な情報をすでにまとめていたのです。キルシュバーム家は剣作りで名をはせ、町長になった人も何人かいたことがわかりました。

先祖について調べてみると、彼らが物静かで人のよい、典型的なキルシュバーム家の気質をしっかりと備えていたことを知りました。ただし、怒らせなければの話ですが、こんな愉快な記録を見つけたのです。私の先祖のひとりに対して、ある地方公証人がたちの悪いはずらをしました。すると町長であるキルシュバーム氏から、この公証人の玄関口に荷馬車いっぱい肥やしを運ばれて来て、彼は家から出られなくなったそうです。

正午に記録保管所を出た私たちは、何百人もの先祖の記録を車に積み込みました。その中には、家系図をはじめ、先祖に関する出版物の数え切れないほどの写し、それにゾーリングゲンの剣製造に関する本などがありました。オランダへの帰り道はふたりともあまり口を開きませんでした。自分たちの身に起こったすべてのことに心を奪われていたのです。しかしあることを想像したとたん、沈黙を破って笑いだしてしまいました。

温厚な性格の先祖たちは、彼らの神殿の儀式に必要な情報が保管されているグラフラスに私たちが着いた時、さぞ安堵^{あんど}の笑みを浮かべたことでしょう。そして、私たちが慌ててゾーリングゲンに向かった時の、彼らのろうばいぶりを想像してみたのです。彼らの叫び声が聞こえてきそうです。「おやおや、あのオランダ人、一体どこへ行くんだらう！」□





あかし 夏に育てた証と友情

ジャネット・トーマス

1 日4ページで、17週間——約4カ月。でも、アリゾナ州メサにあるレッドマウンテンステキ部ハモースタワード部の若い男性と若い女性はやり遂げました。モロナイ書第10章4、5節にあるモロナイのチャレンジを受け、10人ずつのチームに指導者も加わって、モルモン経全部を各チームの全員が読み終えたのです。

各チームにひとりずつ、リーダーが選ばれました。リーダーたちは初めあまり乗り気ではありませんでした。ブレアー・フェルプスなどはどんな問題が持ち上がるか活動の前から見当がついていました。去年、妹が同じような

活動のリーダーをしたので、だいたい予想できたのです。それでもブレアーはこの責任を引き受け、8チームの中の8人のリーダーのひとりに加わりました。

毎週、リーダーはメンバー全員と連絡を取り、メンバーがその週に獲得したポイントを足していきます。ポイントは毎日モルモン経を読むごとに、また定められた期日までのページ数を読み終えたとき、決められた聖句を暗唱したとき、モルモン経と一緒に読み進めるように励ますファイヤサイドや活動に出席したときに与えられます。また、全員に読書進度表、活動予定表、

暗唱聖句一覧、モロナイの約束の言葉などを書いたパンフレットが渡されました。チームどうしの競争はしません。リーダーに報告するのは、目標に目を向け続けるためです。

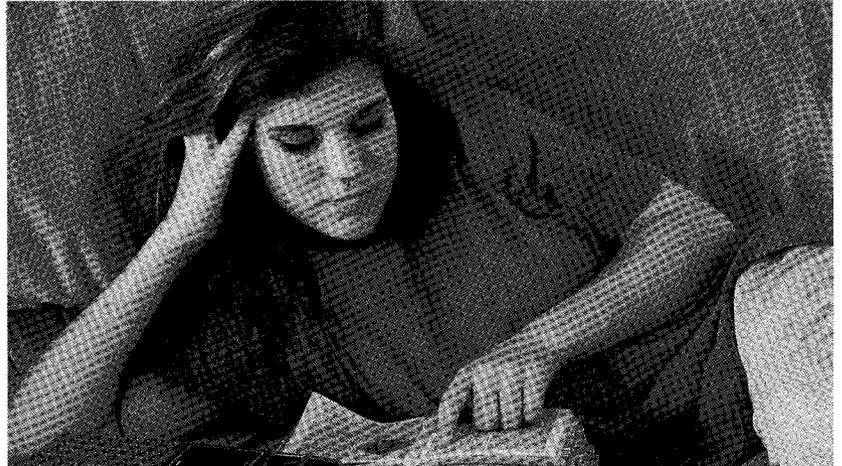
ミッシェル・シェパードは自分たちに起きたことをこう語っています。「とっても張り切っていました。」ちょっと間を置いて、こう続けます。「最初だけですけど……。」確かに最初の何週間かはどのチームも盛り上がりました。ところが、夏休みに入ると読書の進み具合が鈍りだしました。予定どおり読み進めるのがむずかしくなってきたようです。

そんな時でした。進度表に追いつくためにビーハイブで思い切ったことをしました。モルモン経を読むパーティーを開いたのです。マリア・ダストラップはこう言っています。「今まででいちばん変わったわ、あのパーティー。モルモン経を読むだけであんなにおもしろいなんて、だれも予想もしなかったでしょうね。」

モルモン経を読んで、ほとんど全員に、自分の好きな登場人物や物語ができました。マイク・ウォーカーの言葉です。「ニーファイはほんとうにすごい人です。すばらしい模範を示してくれました。読んでいてずっと不思議だったのは、ニーファイの兄弟たちのこと。天使が目の前に現われ、信仰を強めるあんなすばらしい経験をしていて、どうして道を外れ、心をかたくなにしたんだろうと思ったのです。理解に苦しみますね。」

モロナイへの思いを強めた人も多くいました。モロナイの最後の言葉を読んで、悲しみと希望の両方を感じたと言います。「モロナイが別れを告げた時、悲しくなりました。」リーサ・コリントンはそう言います。「それに、モロナイの約束が果たされるのは、モルモン経が真実かどうかほんとうに知りたいと思った時だけです。」

ミッシェルもモロナイの最後の言葉について話してくれました。「モロナイが最後の約束の言葉を記したのは、自分の民が死に絶え、すべてが終わった後でした。モロナイは現代に生きる私たちにもできること、キリストの教えに従って今でも生きられることを告げているのです。」□



モルモン経を読む

終わりまで読み通すには

アリゾナ州メサの若人は決心して予定どおりにモルモン経を読み終えました。目標達成に役立つ方法をいくつか挙げてもらいました。

- 関心を向ける。
- 読む前に祈る。これは助けになります。
- 読んだことを身の回りの事柄に応用する。
- 読書進度表をつける。
- 一章の前書きを読む。
- 気分がすっきりしている日中に読む。いつも同じ時間に読むようにする。
- 友達や家族と読んで、一緒に話し合う。
- モロナイ書を最初に読む。それから、初めに戻って読み進める。



MORON BURRING THE PLATES, BY TOM LOVELL

モロナイをはじめ、犠牲を払ってモルモン経を守った人がおおぜいた。モロナイの約束を試して、少しでも彼らの働きにこたえよう。(モロナイ10：4-5参照)

ヘイルズ監督, 十二使徒に召される

新管理監督が指名され, 6人の七十人定員会会員も召される



十二使徒定員会会員
ロバート・D・ヘイルズ長老



管理監督
メリル・J・ベイトマン長老

ロバート・D・ヘイルズ管理監督(61歳)は、4月3、4日にユタ州ソルトレークシティで開かれた第164回年次総大会で、十二使徒定員会会員に支持された。これはマービン・J・アシュトン長老の死去によって今年の2月に生じた空席を埋めるものである。

ヘイルズ長老の後任として管理監督に召されたのはメリル・J・ベイトマン長老(57歳)である。同長老は1992年に七十人第二定員会会員に召され、これまでアジア北地域会長会会長の任にあった。

今回の発表の中で大管長会はさらに、クリー・L・コッフオード長老を七十人第二定員会会員から第一定員会会員に指名し、さらに5人の新たな七十人第二定員会会員を召した。新たに召されたのは、ブラジル・サンパウロ出身のクラウディオ・ロベルト・メンデ

ス・コスタ長老、メリーランド州ボトマック出身のW・ドン・ラッド長老、ユタ州ファーミントン出身のジェームズ・O・メーソン長老、ドイツ・マンハイム出身のディーター・F・ワークトドルフ長老、カリフォルニア州ポーウェイ出身のランス・B・ウィックマン長老である。

1985年に管理監督に召されたヘイルズ長老は、1975年に十二使徒補助、1976年には七十人第一定員会会員として支持を受けている。イギリス・ロンドン伝道部長、中央日曜学校第一副会長の召しも務めた。

ユタ大学卒業後、アメリカ合衆国空軍に入隊し、前線での戦いは経験しなかったものの、戦闘機のパイロットとして働いた。退役してからは、ハーバード大学で修士号を取得後、実業界に入り、イギリス、ドイツ、スペインの各国で世界的な企業の重役を歴任する

などの卓越した経歴を持つ。

ヘイルズ長老はどの地でも教会の召しを受け入れ、ドイツのフランクフルトでは支部長や監督として、スペインのセビーリャでは支部長として働いた。

新しい召しについてヘイルズ長老はこう語っている。「執事の時に私は使徒の名前を全部覚えていましたが、ニューヨーク生まれのその一介の少年にこの召しがどのような意味を持つか想像できるでしょうか。自分がそのひとりになろうとは思いませんでした。」

ヘイルズ長老と夫人のメアリー・エレヌ・クレンダール・ヘイルズ姉妹にはふたりの息子がいる。

(ヘイルズ長老と新たに召された教会幹部の経歴の詳細は、「聖徒の道」1994年7月号〔大会特集号〕に掲載される予定)□

宣教師訓練センターの新施設、 奉献される

ユタ州プロボにある宣教師訓練センターに、3棟の建物が増設され、3月10日、大管長会のゴードン・B・ヒンクレー第一副管長により奉献の祈りが捧げられた。

同センターは、1976年にスペンサー・W・キンボール大管長により開設、奉献された。現在では、約4,200人の宣教師が宿泊し、44に及ぶ言語を学んでいる。

ヒンクレー副管長は、宣教師訓練の歴史を振り返ってこのように語った。「70年前に、教会幹部らが宣教師訓練プログラムの必要性について協議し、訓練プログラムを確立する決定をしました。当時の伝道活動は比較的小規模でした。しかし、今年7月には伝道部の数は303になります。また伝道中の宣教師、つまり召しを受けている宣教師は5万人近くいます。伝道活動は140以上の国々あるいは属領地で推し進められています。毎年、改宗者数だけで、3,000人の会員を有するステーク部が100は設立できる計算になります。これはまさに奇しき業であり、

宣教師たちが主の戒めに忠実であった成果と言えます。主は昇天する前にこのように命じられました。

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15)」

ヒンクレー副管長のほか、献堂式で話をしたのは、同じく大管長会のトーマス・S・モンソン第二副管長、十二使徒定員会会員であり、宣教師管理評議会議長のデビッド・B・ヘイト長老、訓練センターのチャールズ・M・グラント所長、そしてブリガム・ヤング大学のレックス・E・リー学長らである。

モンソン副管長は献堂式に集まった宣教師たちに、福音を宣べ伝える備えをするに当たり、新しい施設を有効に活用するよう勧め、次のように述べた。

「神に祈り、神を信頼するなら、主はあなたがたを見捨てたりはなさいません。」

新たに増設された建物の概要は以下のとおりである。

●**ロレンゾ・スノー館**——3階建ての多目的施設。教会の儀式およびスポー

ツ活動のために使用される。ロレンゾ・スノー大管長は第5代大管長に召される以前に、宣教師として合衆国南部と北西部をはじめ、イギリス、イタリア、ハワイで伝道した。大管長として最後の年となった1901年には、ロシア、オーストリア、日本および南アメリカ諸国で伝道を開始することを奨励した。

●**リブランド・リチャーズ館**——4階建ての寮。840人の宣教師を収容。十二使徒を31年間務めたりチャーズ長老は、生涯を通じて、伝道への熱心さで知られていた。著書「奇しきみわざ」は多くの人々を教会とイエス・キリストの福音に導いた。

●**ハリエット・ナイ館**——5階建ての教育施設。正式に教会の宣教師に召された最初の女性にちなんで名付けられたこの建物には、173の教室、医務室および訓練事務室がある。イギリス出身のハリエットは、両親とともにユタ州オグデンに到着してから20年後の1867年、イーフレイム・ナイと結婚。1898年にイーフレイムはカリフォルニア伝道部の伝道部長に召された。同年、教会幹部らは女性も宣教師として召されることを発表。ハリエット・ナイは新しい方針の下で召された最初の姉妹宣教師となった。ハリエットは後に、イーフレイムが合衆国南部諸州伝道部の伝道部長に召された際、再び彼とともに働いた。

訓練センターは、プロボ以外にもあり、ロンドン(イギリス)、メキシコ市(メキシコ)、サンパウロ(ブラジル)、ブエノスアイレス(アルゼンチン)、サンティアゴ(チリ)、ポゴタ(コロンビア)、グアテマラ市(グアテマラ)、東京(日本)、ソウル(韓国)、テンプルビュー(ニュージーランド)、リマ(ペルー)、マニラ(フィリピン)、アピア(サモア)、ヌクアロファ(トンガ)の各地で訓練が行なわれている。□



増設された宣教師訓練センター

竹内姉妹と青葉兄弟、 国際美術コンテストに入賞

ユタ州ソルトレークシティの教会歴史美術館主催、1994年度国際美術コンテストで、日本から愛媛県松山市の竹内みどり姉妹(42歳)と、同じく愛媛県西条市の青葉太一兄弟(39歳)のふたりが入賞を果たした。

松山地方部松山支部に所属する竹内姉妹は、家族で家庭菜園にいそむ姿を模した藤細工「家庭菜園」で、メリット賞と買入れ賞を同時に受賞。

同じく松山地方部新居浜支部所属の青葉兄弟は、「聖典に親しむ」と題する陶器で買入れ賞に選ばれた。

全受賞者は、3月25日、コンテスト出品作品展示会の開会式典で同美術館館長のグレン・M・レナード氏から発表された。

展示された200点の作品は、「世界に広がる教会にあって福音を実践する」という本年度のテーマの下に、プロ・アマ双方の末日聖徒の芸術家による500点以上の出品作品の中から選考された。

メリット賞と買入れ賞は10カ国に及ぶ入選者に授与され、メリット賞受賞者にはそれぞれ賞金500 U.S.ドルが贈られた。これはコロラド州デンバーのシルバー財団の寄付によって賄われ、買入れ賞の資金はユタ州オレムのアラン・C・アシュトン信託資金が提供した。教会の基金はいずれの賞金にも使用されていない。

竹内姉妹は作品の制作に際してこう述べた。「家族と一緒に働き、育て、収穫する喜びを、象徴的に表現したいと思いました。私はこの家族が好きです。スイカを抱えている少女の周りに、やさしい両親と頼もしい兄がいて彼女を支えているのです。」

青葉兄弟は、この陶器で「モルモン経の教えを通じて福音を分かち合うこと」の大切さを表現したと述べている。モルモン経の数々の場面やメッセージ

が、中央の「生命の木」(I ニーファイ 8:10-35参照)の周囲に描かれている。

アメリカ合衆国以外からは、ほかにもグアテマラ、韓国、メキシコ、ナイジェリア、フィリピン、シエラレオネ、

ジンバブエなどの各国から入賞作品が選ばれた。

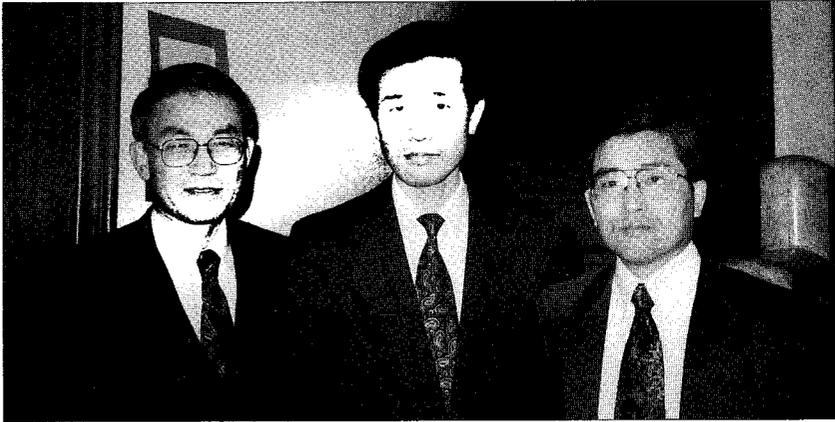
今回の美術作品は、1994年9月25日まで、教会歴史美術館で一般公開される。□



右—陶器
「聖典に親しむ」
(青葉太一作)
下—藤細工
「家庭菜園」
(竹内みどり作)



再組織された三重地方部長会



去る2月6日、ウォルター・L・エイムズ名古屋伝道部長管理の下に開催された名古屋伝道部三重地方部大会で、1992年3月より地方部長の責任を果たしてきた除村秀輝兄弟が解任され、新たに館義徳兄弟が召された。第一副地方部長には、板倉徳雄兄弟(写真左)が、第二副地方部長には、真光繁幸兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。

「わずかなものに忠実であったから ……主人と一緒に喜んでくれ」

名古屋伝道部三重地方部長 館 義徳

「人には何がいちばん大切だと思いますか？」と18歳のころの春、駅前の広場を友達と歩いていると、ふたり連れの女性から声をかけられました。突然に問いかけられたように記憶しています。しばらく考えて「愛かな？」と答えました。友達と一緒になので別れようとする「ゆっくり話したいですね。残念です」と言われました。もしかすると末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師だったのかもしれませんが。

それから約10年の年月がたち、結婚し子供が生まれ3人家族となりました。そんなある日、ふたりの宣教師が訪問してくれました。ひとり日本人で長

谷川長老、もうひとりアメリカ人でトンプソン長老でした。彼らはすぐに転任となり、私たちは新しい宣教師から神様やイエス様、救いの計画について学びました。外国人と話し友達になれるということも楽しく感じられましたが、福音について学ぶことに興味を持ちました。特に、家族は永遠であると知らされた時はうれしく思いました。

レッスンを受ける間にはいろいろなことがありました。子供の突然の発熱で病院へ駆け込んだために宣教師との約束が守れなかったこともあり。そんな時はドアにメモをはって出かけましたが、漢字で書いたメモをアメリカ人宣教師が読めたのでしょうか。な

ぜかメモをはって留守にした時は会員の方が宣教師と一緒に訪問してくださっていました。

そんな私たちでも面接を受けてバプテスマの日が決まりました。しかし、私にはふたつの問題がありました。職場での知恵の言葉に関する心配と、もうひとつ私の実家は仏教を重んじていたので祖父母と両親の反対でした。妻と一緒にキリスト教会に入ることを伝えると全員から強い反対を受けました。ある程度は予想していましたが残念でした。バプテスマの前日まで悩み、夜遅くまで宣教師と話し合いました。ふたりはほんとうによく聞いてくれましたが、こうしなさいということは何も言わずに「今からできないという決心をする必要はない。神様に祈ってどうすべきかは自分で決めてください」と言われ教会を後にしました。

結局、私たちは翌日にバプテスマを受けましたが、自分自身で決めていなかったなら今の私たちはなかったかもしれません。私たちよりずっと若い宣教師たちでしたが、人を導くための方法をよく理解していたと感じます。しかし両親の目を盗んで教会へ集うというような状況が数年続きました。こんな状態でも毎週教会へ集えるように努力しました。農家の家庭に長男として生まれたこともあり、両親が安息日に田畑で働いているのを横目に集会に出席するのはつらいことでした。そこで指導者からの提案に従い、土曜日や安息日以外の休日に両親を手伝うよう努めています。

神権を受け、ホームティーチャーとして働いたり初等協会の教師の責任をいただいたりして、教会での奉仕活動

館 義徳 地方部長の紹介

1954年三重県四日市生まれ。三重県立四日市工業高校卒。1981年、鈴木洋子姉妹と結婚し、1983年、家族でバプテスマを受ける。現在3人の子供がいる。名古屋伝道部三重地方部四日市支部所属。会社員。これまで副地方部長、地方部幹部書記、支部長、副支部長、支部書記を歴任している。

に参加できました。最初の1年間は、当時の地方部長がホームティーチャーとしての同僚でした。忙しい中であってもどのように時間を作り出すか、また家庭を大切に、何を優先すべきかを彼の模範を通して学びました。また彼は私たちのことをよく気にかけてくれました。

それから数年たったある日、ひとりのアメリカ人が四日市支部を訪問しました。見覚えのある人だと思っていたところ、最初に我が家を訪問してくれたトンプソン長老でした。私たち家族が元気に教会に集っていることを自分のことのように喜んでくれました。この時、私たちは4人家族になっていました。

またその数年後、支部長の責任にある時、彼は仕事の関係で東京にいる時にわざわざ三重県の四日市まで会いに来てくれました。モロナイ書第6章4節に「この人々を忘れてなおざりにせず」とあるように、彼は福音を実践していました。私も彼を模範に福音を自分の行ないに表わしたいと思います。

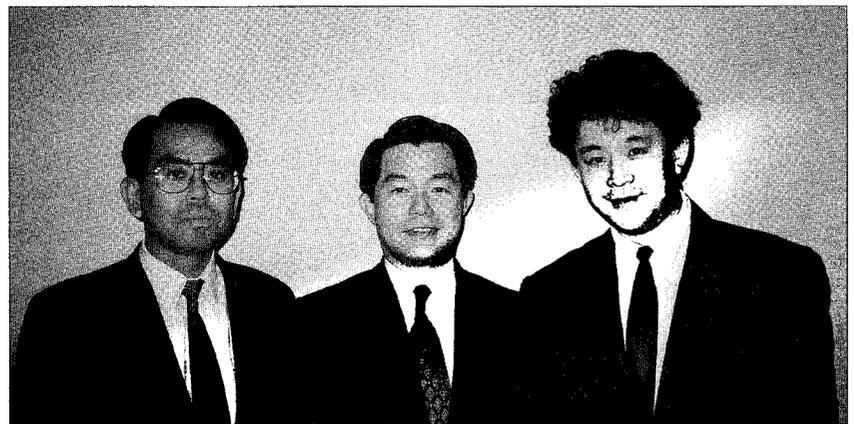
環境に関するある講演会で、紙資源のリサイクルの必要性について聞きました。私たちひとりが行なえることは非常に小さいですが、決心し行なえば必ず結果として表われるということで

す。聖典にも「わずかなものに忠実であったから……主人と一緒に喜んでくれ」(マタイ25:21)とあります。教会での責任についても私ひとりの働きはわずかなものですが、私が前向きに努力するときに主が助けてくださり、いつか実を結ばせてくださることを信じています。主は、多くの機会を通して未熟な私を忍耐強く見守ってくださいました。そして信仰と証を強めてくださいました。

いつもそばにいて助けてくれる妻といつも励ましてくれる子供たち、そして多くの兄弟姉妹の助けや励ましに感謝しています。生活するうえでは多くの悩みや問題もありますが、日々平安を得て暮らせるのも真実の教会に入れたからだに感謝しています。

そして一緒に働いてくださるふたりの副地方部長は、備えられたすばらしい人たちであり感謝しています。(たち・よしのり)

再組織された熊本地方部長会



去る1月23日、1987年7月より地方部長の責任を果たしてきた田代浩三兄弟が解任され、新たに角屋光典兄弟が召された。第一副地方部長には、坪田一雄兄弟(写真左)が、第二副地方部長には、池上修一兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。

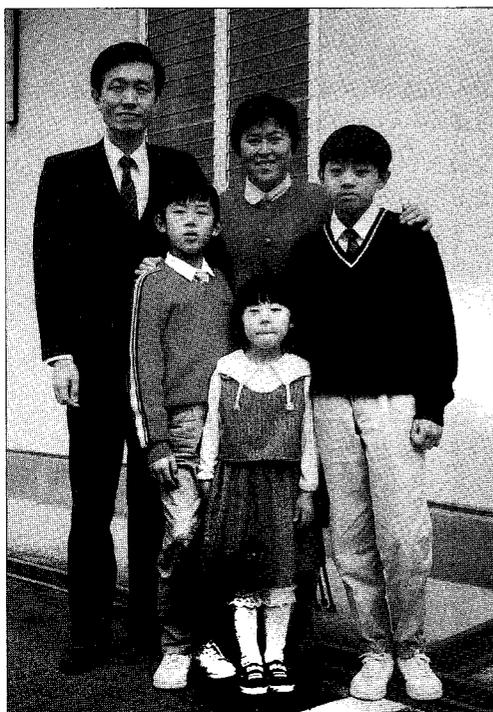
「私の生命、私の光、私の喜び、私の救い」

福岡伝道部熊本地方部長 角屋光典

「神様は生きておられます。あなたは自分自身でそれを知ることができます。」笑顔と確信に満ちたふたりの青年の態度と熱意を見た時、福音を学ぶこと、モルモン経を読むこと、祈ること、酒、たばこをやめることの4つのチャレンジを受け入れ、1カ月間だけ実行する約束をしました。

3日目、7日目、10日目……と過ぎ

ました。チャレンジを全部行なってみましたが、何も変わりません。18日目になり、モルモン経の序文にふと目を通しました。「誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば……」(モロナイ10:4)という言葉が強く私の心に残りました。私は祈り続けてきたが、誠心誠意祈っては……なかったのではと思いました。



館義徳地方部長ご家族



角屋光典地方部長ご家族

角屋光典 地方部長の紹介

1950年福岡県生まれ。22歳でバプテスマを受ける。岡山大学法文学部卒。1979年、市橋久美子姉妹と結婚し、現在5人の子供がいる。福岡伝道部熊本地方部長嶺支部所属。会社員。これまで副地方部長、地方部高等評議員、支部長、長老定員会会長、支部書記を歴任している。

その日、下宿にだれもいないのを見定めてひざまずいて祈り求めました。「神様、私は神様がおられるのかまったくわかりません。もし彼らが証するように実在されるのなら私にもそのことを教えてください。またモルモン経は事実なのでしょう、そのことを私に教えてください」と。祈り終えてモルモン経を読み始めました。その時、私の心の中に「この本は人間の知恵によるものではない！」という強い思いがあふれてきました。「神は生きておられる！」祈りがこたえられたのです。

私はバプテスマを受けました。今までの考え方を考えるのは大変でしたが、この福音を知ることができたのは大きな喜びであり、価値あることでした。卒業後、大阪の会社に就職しましたが、私自身の弱さから神様の教えと自分の行ないとのギャップに苦しむようになりました。証はいつも心の中にありましたが、自分の罪や弱点のために、もがき苦しむ生活が続きました。

ある日、自分の行く末、現在の状態について祈りました。もし、自分が間違っているのならばもう一度立ち返る

うと決心しました。「神様、私は罪を犯しました。私を赦してください」と私は祈りました。その時、「悔い改めなさい。私はそれでもなお、あなたを愛している」という神の言葉を心の中で聞きました。私は「ああ、神様、あなたは私のような塵にも劣る者でさえ、まだ愛してくださるのですか」と問い直していました。みたまに包まれた安らぎと平安の中で私は神様の深い愛とイエス・キリストの贖いについて初めて知ったのです。イエス様は私の罪のためにみずからの命を捧げてくださったのです。私が罪を捨てて、イエス・キリストのみ名を引き受け、イエス・キリストの福音に生きるとき、再び神様のみもとに帰ることができるという希望が与えられたのです。その時私は、「生涯を通して神の栄光を表わし、救い主イエス・キリストを証する者になろう」と決心しました。

その後、家族に福音を伝える機会が与えられました。父が交通事故で危篤状態になり、家族、親戚が集められました。医師は1日もてばよいと言いました。2日たち、1週間がたちました。父は奇跡的に命を取り留め、1年後、神様の恵みにより母と兄と3人でバプテスマを受けました。私はなぜ、神様が父の健康を回復し、改宗へ導いてくださったのか尋ねました。その答えは、兄の信仰によるものでした。教会員でもなかった兄は、神様にイエス・キリストのみ名によって父を生き永らえさせてくださいと祈っていたのです。ま

た家族の改宗を通して、宣教師を助けてくださっていた姉妹と知り合い、結婚の祝福をいただくことができました。

その後、転勤で熊本に住むようになりました。仕事も順調でしたが、出張の多い仕事のため、2年後転職しました。新しい仕事を始めた時、収入は半分になり、給料をもらって10日ほどでなくなり、食糧貯蔵用の米も空になりました。私たちはひざまずいて祈りました。「これまでじゅうぶんの一を納めてまいりましたが、今月の食糧がもうありません。どうぞ私たちを祝福してください。」祈り終わると玄関のベルが鳴りました。書留が届けられたのです。開封するとお金と手紙が入っていました。何年か前に、失業していた方に幾分か援助させていただいたことがあったのですが、神様は必要な時に、私たちに愛の手を差し伸べてくださったのです。私たちは心から神様とその方に感謝の祈りを捧げました。

バプテスマを受けてから20年。振り返ってみると、たくさんの弱点を持つこんな私にさえ、神様はいつもあふれるほどの愛と恵みを注いでくださいました。岡山、高槻、熊本の地で素晴らしい宣教師や兄弟姉妹の愛と模範の中で多くのものを学ばせていただきました。また、フィゲレス伝道部長との出会いを通して、神様の見方、考え方を経験を通して学ぶ機会が与えられたことは大きな祝福になりました。福音を生活の中に取り入れることにより、真の喜びと幸福を感じるようになりました。

今、心の中に天父とイエス・キリストに対するふつふつとわき上がる感謝の思いがあります。神様はまさしく「私の生命、私の光、私の喜び、私の救いであって、また私を永遠の不幸悲惨の境涯から救いたもう方である」(アルマ26:36)ことを心から証します。熊本地方部の皆様とともに、神の聖徒の共同社会を築くために働きたいと思えます。すべての人がイエス・キリストのみもとに来てイエス・キリストが教えられた価値観を学び、身につけ、福音の実を心ゆくまで味わうことができるよう心から願っています。(すみや・みつのり)

わが人生の師

——^{ずいほう}勲五等端宝章を授与された^{たましろせいとう}玉城盛通兄弟——

沖繩那覇^{なは}ステーキ部^{おろく}小禄ワード部 吉澤常子

小 禄ワード部の玉城盛通兄弟が、1993年11月3日の文化の日に勲五等端宝章を授与されました。小禄ワード部は監督の人柄と大きな愛に包まれ、子供から大人までワード部がひとつの家族であるという意識があり、助け合いと一致が浸透しています。したがってこの叙勲は玉城兄弟姉妹の喜びはもちろんですが、ワード部にとっても大きな喜びであり、早速皆が一品料理を持ち寄っての祝賀会が開催されました。国家的行事の勲章を授与されるのは沖繩ステーキ部でも初めてのことであり、ステーキ部長会も招待し、みんなでお祝いしました。

玉城兄弟は現在79歳ですが、24歳から定年まで36年間警察官として勤め、沖繩が27年間アメリカ統治下にあった特殊な時代も含め、巡査—巡査部長—警部—警視—警視正—と責務を果たしてこられました。退職後は7年間、自動車教習所協会の事務局長として、また沖繩の祖国復帰の際には、それまでのアメリカ式交通「車は右・人は左」から一夜にして、「車は左・人は右」に変更になるに際して大活躍されました。在職中の種々の功績と退職後の善良な生活が「警察功労章」として表彰されたのです。

祝いの席のあいさつで、玉城兄弟は「皆さんが祝福のメッセージで内助の功として妻のことを褒めてくださったことがいちばんうれしい」と涙ぐんで心からの気持ちを述べられました。また「この賞に恥じない生き方をして、さらに今後は神様からの勲章を受けられるように努めます」と語られました。

玉城兄弟は若いころから聖書に興味を持ち、「人生をどう生きたらよいか」「神とは何なのか」との疑問に対する答えを求めて宗教書を読み、ある

時期ほかの教会の教えも勉強しましたが、改宗には至りませんでした。

定年退職後の60歳を過ぎてもお、求道の気持ちは続き、ある日古本屋でモルモン経を見つけ購入しました。少し読んだ後そのまま放置、いつしかモルモン経があることを忘れていました。

年月が過ぎ再びモルモン経を買い、モルモン経が2冊あることを意識したところ、宣教師の訪問を受けました。20代の若いアメリカ人宣教師たちに心打たれ、「モルモン経が2冊あるということはふたりで改宗しなさいということ」と悟り、夫婦そろってバプテスマを受けたのが今から10年前のことです。

しかしバプテスマを受けるまでに、すべてがスムーズに行ったわけではありません。特にバプテスマを受ける日になっていろいろな迷いが生じ、心が重くなっていくのを感じた時、何げなくテレビのスイッチをひねると、「列

車の転覆事故で^{けいけん}敬虔なクリスチャンであったひとりの鉄道職員が線路上に飛び降り、みずからの体を歯止め列車を止め、全員を助けた」という実話を基に書かれた三浦綾子の「塩狩峠」のドラマが放映されていて「1粒の麦が地に落ちて死ななければ……」（ヨハネ12：24）という言葉に触れました。その時彼はすべての迷いが一瞬にして消え去り、「これはクリスチャンになれるというメッセージだ」と、踏ん切りがついて、すっきりした気持ちでバプテスマに臨んだそうです。

監督の話によりますと、玉城兄弟姉妹はいつもワード部内の兄弟姉妹に心を配っていて、監督室を訪れては「〇〇兄弟が困っているそうだから、自分たちからとは言わず、これを差し上げて」とか、「〇〇姉妹が元気がないけど何か助けが必要ではないでしょうか」というように常に周りの人を気に掛けておられました。

玉城兄弟姉妹は年齢に関係なく子供でも大人でも、また教会員と非教会員とを問わず、自分たちの住んでいる地域の子供たちにも家の玄関をいつも大きく開け、受け入れ、施し、愛を示しておられます。「一宿一食を拒まない」「無財の七施」という言葉がありますが、この言葉の精神が生活そのものになっている玉城ご夫妻に質問をしたことがあります。「玉城兄弟は努力して、そのように人を愛しているのですか」と。しかし彼らの答えは「意識してそうしているわけではありません。そんなことしたら疲れますよ……」という返事でした。

私は勝手に「彼らの純粋な愛は天賦のものかもしれない」「努力して得られるものではないかもしれない」と思ったりもしましたが、モロナイ書第8

玉城盛通・喜代子ご夫妻



熊本地方部長嶺支部の野尻干穂子姉妹(47歳)は、「第9回お茶の間論文コンクール」(熊本日日新聞主催)に応募してみごと特選に選ばれました。小学校6年生の運動会の練習中に突然倒れ、^{せきざい}脊髄障害で胸から下が^{まひ}麻痺して以降の人生の断片をつづったものです。野尻姉妹は7年前に改宗、福音を通して学んだ人生の意味を、執筆活動や講演などを通じて広く社会に問いかけています。(野尻ご夫妻の改宗の証は、本誌1987年8月号のローカルページで掲載)

聖典には「人間はどんなに着飾っても野のユリに劣る」(IIIニーフイ13:28-29参照)とあります。外見的な美しさは加齢とともにしぼんでいきます。しかし、内面的な美しさは年とともに輝きを増してくるということをワード部の年輩のかたがたから学ぶことができます。それらのかたがたの模範に感謝し、叙勲を機会にワード部の誇りになっている玉城兄弟姉妹について紹介させていただきました。(よしざわ・つねこ ワード部広報委員)

*玉城盛通兄弟は4月9日、病気のため^{めい}冥福をお祈りいたしました。

章26節にある「すべての聖徒らが神と共に住める終りの日まで人の胸に宿るのである」という愛だと思えます。

小祿ワード部には玉城兄弟姉妹以外にも尊敬できる多くの年輩の姉妹たちがおられ、私たちは彼らの経験と知恵から多くの祝福を受け、子育てに信仰生活に役立てています。扶助協会で「祖父母と親しい交わりを保っている子供は、より大きな安心感と強い家族意識を持っているものである」と学びました。子供たちの安定した情緒と成長に祖父母が必要なように、ワード部にも、長年の経験から宝石のように原石から磨き出された愛と寛容、忍耐を身につけた敬慕できる年輩の兄弟姉妹たちはとても大切な存在です。

足を持ち上げ、触っているのがわかるかい? と聞かれた時、目に一杯涙をためて首を横にふっていました。その日、歩けない人生の幕が上がってしまったのです。

手術の箇所が背中でしたので首も固定してあり、お尻までギブスに入っただけで何カ月も過ごした時間は、今振り返ると一番忍耐を必要とした時期だった気がします。そんな中で何よりの楽しみが、手鏡で外の景色を眺めることでした。お見舞いの花束に古里の秋桜をもらった日、二度目の手術を黙って受け、あんなに頑張ったのに私の足は歩くことを忘れてしまい、おまけに排尿、排便も分からなくなっただけに、お尻には大きな痔ができて、それは長い年月私を苦しめたのでした。「手術したら先生はまた走れるようになると言ったのに! 先生の嘘付き!」。担当のお医者さんの顔をみる度、しばしばはぶつけた言葉です。

当時は今みたいに福祉が充実しておらず、七割の入院代を払うのは、農家にとっては大変な額でした。一回目の請求書で払わないでいると、次にくる請求書は、赤い色の紙で届きます。何度もその色の請求書を見ている私は、肩身の狭い思いと両親にすまない思いとで「お金を持って来て下さい」と書くハガキの指は、いつも震えています。のぞき出しします。手鏡の中に雪が写る頃、少しも回復することのない体に、いやでも現実を認めざるをえず、病院に居ても全治しないと悟った日、たまたま古里が恋しくなりました。先生に気持ち話をし、帰る準備をはじめ、床ずれがもう少し治るまでとしる先生に、時々は診察にくることを約束し、退院を許されたのは病院の花が、満開に咲く四月でした。父に抱かれてめでた桜の花は、とても艶

命、今

野尻八王寺本市熊

特選

の御飯を手鏡でみて、上手に食事をして、上手に食事をしていたその頃の私でしたが、座って食べる練習をしようと努力し、何とか半日起きられるようになった頃、また人生の試練は訪れたのです。「この家が貧しくなったのはお前の入院のせいだよ。お金か払えず田畑売ったせいだよ」。その頃家によく来ていたその人は、冷たい目で私を見降し言いました。目の前が真暗になる衝撃とは、あんな感じを言うのでしようか。自分だけの悲しみの中にどっぷりと首まで浸っていた私が、少しずつ家族の悲しみもみえるようになったのは、三日三晩眠れない夜を過ごした後のことでした。

家族一人一人の悲しみが空白になった心に埋まりはじめ、その日母の動く姿を、一日中目で追っていました。その頃の他に、我家には中風の後遺症で、左半身が動かなくなった祖父がいました。母は自分よりも大きい祖父を背中から抱き、下のお風呂場まで連れていき、体を洗ってあげ、またお布団まで連れてきていました。洗濯物といえば毎日山程もあり、私のオムツの数も相当な量でした。それなのに母は、愚痴の一つも言わず一生懸命に生きていました。母への愛が胸一杯に広がった日です。「こんな娘でごめんね」。心の底からわびる私でした。この両親からいつの日か、「お前が娘で良かった」と言われる日が来るように、精一杯努力して、世界一素敵な障害者になるうと誓った、十七歳の夏でした。

どの噂を私に教えてくれた大いなる自然の営みと、限られた命を、日々輝いて生きていた友に教えられたからこそ、母になれたのだと心から感謝しています。

互いに許し合い、認め合い、人という字を二人で生きて、もう十五年になります。歩けない人生を歩き続けて三十四年。どうして私がこんな辛い目に、の思いで幕が上がった胸から下の麻痺の人生に、言葉なき花の命のみことな生き方に、あるがままの姿で、ひたむきに生きる姿勢を学び、刺(とげ)ある言葉の裏側に、隣人への思いやりの心を学んだ。今私は、私個人として育つために、その分の悲しみが必要であったのだと、魂で受けとめています。

今年の二月、或る中学校のPTA総会で「人間て素晴らしい」そんなテーマで講演を致しました。その前日、ふと阿蘇に住む両親にも、私の話を聞いてほしいと思い、電話しました。講演帰りの車の中で、父が啜くように「お前が娘で良かった」と言ってくれたのです。うんうんと、隣で運転しながら頷(うなず)く私の胸の中は、努力の数々が浮かび、熱い思いがこみあげていました。

「学ぶ」というテーマで、私を人として育て、導いてくれたすべてを、改めて深くみつめる機会が与えられたこと、感謝の気持ちで一杯です。私は今、歩けないこの人生で良かったと心底思い、この人生を楽しんでいきます。失った健康の分、多くの人に支えられ、もらった優しい数、感謝の心が育った気がします。これからの人生、たくさん愛された分、たくさん人を愛して、とびっきり笑顔に思いを込めて、生きてみようかと決心しています。

論文コンクールで特選

神様の愛と恵みを受けて

熊本地方部長領支部 野尻千穂子

●教会での教を社会の中で

生かしていきたい

教会での知識を、もう随分心に蓄えたと感じ始めた4年前から、社会の中でこの知識を生かさなければと思うようになりました。私にできることはとよく考えた末、新聞に自分の思いを投

稿することにしました。

初めて書いた時、思いがけず記者の取材を受け、写真入りで大きく新聞に載ったのです。(編注——本誌1990年12月号、ローカルページp.11参照)読まれた方の中には電話をくださったり、会いにわざわざ訪ねてくださったりし

た人がいました。これから先、私はこんな形で伝道していこうと決心しました。

投稿すると、ほとんど新聞社で採用してくださり、それを読まれた方から講演の依頼を受けるようになったのが一昨年の7月からです。これらのかたがたとこれほど心を通わせることができたのは、みたまの助けがあったからでしょう。それ以来、私はほんとうによく祈って執筆するようになりました。私は人が好きです。まだ福音を知ら

冷たくなり、身震いをしていました。そんな母の様子にただならぬ心配を感じ、心の中は氷を張り詰めたように

何気なく毎日を暮らしていた私が、命の重たさに気づかされたのは十一歳の秋。歩く事は何ともなかった足が、運動会の練習日、突然走る事ができなくなり、恐る恐る出掛けた病院で検査の結果、入院の必要があると告げられたのです。子供心に不安の雲がもくもくと広がり、得体のしれない恐ろしげで体中が包まれたのを昨日の事ように覚えています。何としても六年生の修学旅行だけは行かせて下さいと、少しだけ入院するのを延ばしてもらい、友達と行けた修学旅行の思い出は、後で随分と私を慰めてくれたものです。年明けて早春、「行ってきました、すぐに帰ってくるからね」と元気で歩いて出た家に、まさか一年後、胸から下の麻痺(まひ)した体を父に抱かれて帰らねばならぬとは、その時誰が想像したでしょう。

太陽の光を身近に感じるようになる六月。あじさいの花が色付き始める頃、一回目の脊髄の手術を受けました。今度目ざめた時は元気に走り回る足が戻っている事を信じ、覚悟を決め目をとじ、麻酔の空気を大きく胸に吸い込み、深い眠りへと落ちていきました。とても長い時間麻酔がとれなかったらしく、母は何度も心配で看護婦さんの詰め所まで走ったそうです。名前を呼ばれていると気づき、深い眠りからさめた夜、心配気に私の顔を覗き込む、幾つもの腫があり、手術が終わったのだと知りました。でも不思議なことに胸から下が、まるで無くなっているように何の感覚もなく、思わず母に「私の足はついているの？」と聞いていました。母の顔がみるまに蒼白(そうはく)に変わり、足音を立てて病室を出ていきました。

やかで、私の姿とはおおよそ不釣り合いなものでした。古里へと走る車の中で笑顔の練習をする私。元気な声で帰ってきたよ。と言わなければ等、そんな思いで一時間半車に揺られ、窓の景色の中に懐かしい南阿蘇外輪山が見え、田んぼの匂いをかいだ瞬間、不覚にも涙をこぼしていました。近所の皆さんの心のこもった、退院祝いのご馳走を目の前にして、もう私の涙は止まることをしりませんでした。あんなに笑顔の練習をしたのに。健康な体が当然のように生きていた幼い日、山も花も鳥も友とは思って

もみななかったのに、それからの人生、大いなる自然の営みが、私の一番の友となったのです。天気の良い日は縁側にお布団を引っばってもらい、お尻の床ずれを日光消毒するのが、いつもの日課でした。



その頃の淋しさを感めてくれたのが日々色を変える外輪山と、季節毎に咲く花達の姿です。何年も念ざがることを忘れた床ずれと付き合い、自分だけが幸せから取り残されたように感じる、時の流れの中で、ふと毎年咲いてくれる百合の花が心にとまりました。与えられた場所で精一杯咲くその姿に、その時人として生きる姿勢を学んだ気がします。誰かにほめられようと、ほめられまいが、今日咲く日のために、雨の日も風の日も人知れぬ土の中で、美しさを育て続けて今、こんなに凛(りん)んと咲いている百合の花に、与えられた障害のある体を、あるがまま受け入れ、精一杯生きるこ

とが、どんなに素敵

翌日から早速オムツを取る訓練を開始、トイレまで這って体を運ぶのですが、三日もせず手足の皮はむけてしまいました。それならばと手袋に、足には靴下をはき訓練を続けました。阿蘇山に白い雪が積もる頃、三時間はオムツがぬれなくなり、母の洗濯物からオムツが無くなった日、嬉し涙が流れました。やればできる。この時の経験がその後の私の人生を、行動力あるものにしてくれたようです。

自立のために編物教師になるべく入所した施設で、多くの友と出会い、障害がどんなに重くても今を生きる命の尊さを学びました。仕事するのに必要な車の免許をとりたいと思い、調べてみたら、車椅子の私が宿泊できる施設が、まだ熊本になかったのです。大変でしたが別府まで行きました。二カ月間頑張り苦労の末、念願の免許証を手にした日、努力がまた一つ実った胸は、明日への希望で熱く燃えていました。

書いて

千穂子

二人は共に暮し始めたのです。数カ月後新しい命の芽はえを感じ、不安と喜びの交錯する中、産婦人科を訪ねました。「おめでたです。しかし……と先生は麻痺の体を心配され産むことが勧められず、両親にもお前の命が大事だからと、諦めるように言われ

ない人に、私なりに神様の愛を伝えたいと思うようになりました。講演をひとたびいたしますと、私の体験を聞いてくださった方が、ほかのかたがたへ次々と話して下さるらしく、その後講演の依頼が増えていきました。

そんな中で昨年5月、新聞紙上で「お茶の間論文コンクール」の募集の記事を友人が見つけ、私にぜひ書くように言ってくださったのです。私は夜中に起きて祈りました。そして原稿用紙に向かい書き始めたのです。

私はいつの日にか自分の人生について書いてみたいと思っていましたから、「学ぶ」というテーマはとても書きやすかったです。幼いころの思い出が次から次と浮かび、それを私は文字にしていきました。これほど人に感動してもらえるとは、まさに神様が私を通して人々に愛を伝えようとされているのだと今強く感じています。

この「今、命輝いて」を読まれた方から電話、お便り、講演の依頼を県内外から数多く受けました。私の才能を神様が豊かにふくらませ続けてくださっています。これから先も、多くの人たちに愛を伝えられるよう精いっぱい頑張っていきたいと思っています。

●娘の出産で得た祝福

下半身麻痺の体で赤ちゃんを授けられた時、私と主人は喜んで産婦人科へ出かけました。「おめでたです。です

が、あなたの体では無事産めるかどうか心配です。よくご家族と相談され、1週間後にまた来てください。」

家に着いてから両親に「赤ちゃんができたよ！」と電話で早速話しました。お医者さんの言葉もそのまま

伝えました。両親は涙声で産むのをあきらめてほしいと言うのです。

そんな反対の中で、主人に新しい命を世の中に出してやるのが私の務めだと思うと訴えました。主人は言ってくれたのです。「そんなに産みたいなら産めばいい。もし障害児が生まれたら仲間がひとり増えたと思えば、力を合わせて生きればいいよ。」私はこの言葉を一生忘れません。

手術は覚悟していましたが、なんと自然分娩で赤ちゃんを産めたのです。産声を聞きながら体じゅうで神様の存在を感じた私でした。今の私には、皆が反対する中で私たちがあえて困難な道を選んだことを神様が祝福してくださったから、自然分娩で産めたのだとの証があります。女の赤ちゃんでした。

娘が11歳の誕生日、「お母さん、私が生まれた時、うれしかった？」そう聞いたのです。あなたが世の中に出てくるのはだれもが反対だったこと、お父さんが産んでもいいよと言ってくれたこと、だから今生きていることなど正直に話しました。聞き終わってから娘は、「どこの家よりこの家に生まれてよかった！」そうほほえんでくれたのです。

ほんとうにこの私に主人がいて、娘まで授けてくださった神様に感謝の気持ちでいっぱいです。(のじり・ちほこ 扶助協会家庭訪問管理会員)



野尻千穂子姉妹
(写真中央)とご家族

大阪堺ステキ部泉北支部
大垣武史

私の妻は三男を授かった時もひどいつわりで、2カ月近く入院しました。妻にとっては非常に苦しい日々でした。長男、次男と男の子が続いて生まれ、3人目は女の子と思っていましたが妻に神権の祝福をしている時、私は心の中に強く神権者を授かったという思いがわきました。

12月に入ってから、再び妻に神権の祝福をしている時、子供は12月25日のクリスマスの日に生まれると強く感じ、そのことを後で妻に話し、日記にも書いておきました。三男は祝福のとおりクリスマスに生まれました。私はお産に立ち会い、首に二重もへその緒を巻き、紫色になりながらも必死に生まれてきた赤ちゃんを見て、「この子はほんとうに強い子だ」と涙しました。

1週間後、私は教会に行きひとりで神様に祈りました。子供の名前を決めるためにでした。その時、ヨハネによる福音書第1章4節から5節の「光」という言葉が頭に浮かんできて離れませんでした。私たちはこの子を「光也」と名付けることにしました。すくすくと育っていった彼は私たちにとってまさしく光でした。いつも天使のような笑顔ですべての人にほほえみかけてくれました。私と妻は光也がとても清く、特別な霊と感じていました。また、それゆえに、汚れたこの世の悪を見せたくないと感じていました。むしろ、清くやさしい光也がこの世で生活していけるのか心配していたと言った方がよいかもしれません。

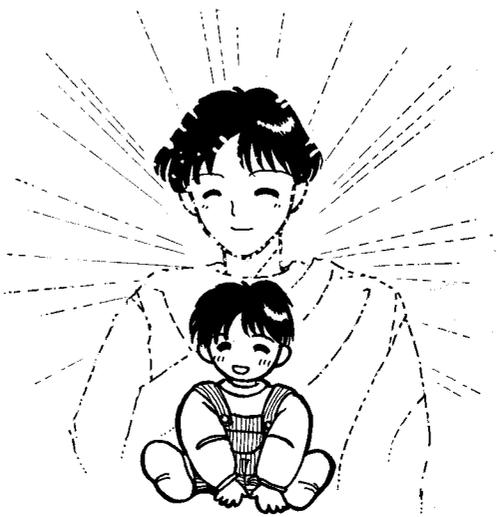
1年ほどたった12月29日午後3時ごろのことです。光也が事故に遭いました。私はすぐに病院に光也を連れて行きました。病院で私とホームティーチャーの尾崎兄弟が癒しの儀式をしようとしていました。ところが、私がいつも持っているはずの油を入れた容器がなく

始めからすでにキリストにより救われている

なっていました。尾崎兄弟のオリーブ油を容器から光也の頭に注ごうとしたのですが、不思議にも1滴も出てきませんでした。

手術室に入る前のことですが、それまで妻に抱かれていた光也が私の方に手を伸ばしてきたので、私は光也を抱きました。すると光也は私の顔を見上げ、私がほほえむと光也は安心したようににっこりとほほえみました。そして下を向いたかと思うとすぐにもう一度顔を上げて私を見ました。私は光也の目を見てまたほほえみました。光也は赤ちゃんというよりはまるで大人のようにほほえんで「お父さん、さようなら。いつまでもほくのお父さんでいてください。先に神様の所へ行って待っています」と言っているようでした。それから光也は死んだように眠ってしまいました。眠ったまま光也は手術室に入って行きました。

午後6時から10時までの4時間、手術が終わるのを待っているのはつらく長い時間でした。私と妻は何度も祈りましたが、心に平安はなく、光也はその晩午後10時ごろに亡くなりました。



イラスト/山庄亜樹 東京東ステーキ部千葉ワード部市原支部 (p. 15も)

妻は泣いていました。しかし、妻は光也が「お母さん、強くなってください」と語りかけていると感じたそうです。

その晩、家に帰った時、妻がモルモン経を読んでほしいと私に言うので私はモロナイ書第8章を読み始めました。12節の「幼児は世の始めからすでにキリストにより救われている」というところに来ると涙が止まらなくなり、声が詰まっ

てその先を読めなくなりました。みたまがそれまでに感じたことがないほど強くその言葉が真実であると証してきたのです。私は神様の愛、イエス様の贖い^{あがな}に心から感謝しました。

葬式の日の朝6時ごろ、妻は光也が来ていると感じ、ひつぎの前に行ってみました。霊の光也を見ることができませんでした。私はその時、ただ光也に会えるように祈りました。一目でも会って心から安心しなかったからです。そして、ほかのだれかを通してでもいいから光也の言葉をくださいと祈りました。

私たち家族にとって光也との別れはつらく、5歳の長男も泣いていました。葬式が終わってから私の支部に所属する副ステーキ部長の溝口兄弟が、どうしても私たちに話したいことがあると言われま



生後10カ月のころの光也君

した。

彼はその朝早く目が覚めて、6時ごろモルモン経を読んでいると、大人の霊の姿をした光り輝く光也が現われて「お父さん、お母さんに伝えてください。1年間という短い期間でしたが、ぼくはお父さんお母さんのところに生まれてきて幸せでした。また、家族の皆と会いたいです。今は神様のところにいるので安心してください」と言ったそうです。光也は何度も心配しないでくださいと言っていたそうです。溝口兄弟はあまりの経験に自分がおかしくなったのではないかと思ったほどだったそうです。そして、なぜ自分に光也が現われてきたのかとつくづく考えていたそうです。しかし、葬式の献花でひつぎの前に立った時、今度は大きくはっきりとした声で「お父さん、お母さんに必ず伝えてください」ともう一度言われ、彼は私たちにその経験を伝えてくれました。

私と妻は彼の話を聞いて、より一層心に平安を得ました。今、私たち家族は、光也とともに永遠の家族として神様のところに帰れるように心から望んでいます。(おおがき・たけし 第二副支部長)

北九州ワード部, モルモン経配布 目標1,000冊達成

福岡ステーキ部北九州ワード部
木村啓介

私たち北九州ワード部では、1992年9月13日に開かれたワード部大会から翌年9月12日までの1年間に、まだ福音を知らない1,000人の人々にモルモン経を配布する目標を立てました。

北九州ワード部は毎週100人前後の兄弟姉妹が集い、家族数でいうと60家族ほどですが、このような1,000冊という目標は初の試みでした。まず私たちはグラフを作り、モルモン経を1冊だけかき差し上げるごとにそこにシールを張っていくことにしました。そして小さな紙にどのような機会に差し上げたかなど書いてポストに入れてもらいました。最初、その歩みは少しずつでしたが、私たちの心の中にはだんだんとこの目標に対する個人の意識が高まってきました。

教会に行けば、しばしばモルモン経のグラフに目をやりました。そして半年が過ぎたころはまだ3分の1にも達していないぐらいでしたが、少しずつグラフが埋まっていく喜びを感じました。個々でいろいろな機会に配りましたが、皆で一緒に経験できて、いろいろな人々に読んでもらえるように、兄弟姉妹で集まって家々を回ったり、街頭などで配布したことも何回かありました。こういった活動は私たちにとってひとつの冒険でした。

月日は流れて残り2カ月となり、目標の1,000冊までにはまだ3分の1ほど足りません。日がたつにつれて緊張さえ感じましたが、絶対達成しようと心に決め皆で頑張りました。

そんなころ、ポストの中に入れられた会員からの配布報告の小さな紙を見て、一人一人の見えないところでの働きを感じ励まされました。それを見る



と、ある人は学校の友達に、ある人は職場の人に渡しました。中には卒業する前や職場を去る時にクラスや周りのたくさんの方にモルモン経をプレゼントした兄弟や姉妹もいました。そのほか親類や教会に来られる非教会員の方などに、お祝いや病気のお見舞いの際などに渡した家族もありました。お店に置いてもらった姉妹、図書館や老人ホームなどに何冊か寄贈した兄弟、家に訪問して来られたセールスマンやほかの宗教の方に差し上げた姉妹などさまざまです。この一人一人の働きを知る時に、そこに数ではないそれ以上の価値を感じました。そして友達にモルモン経をプレゼントした小さな子供たちの働きは大きな模範でした。

1,000冊という目標数にも深い価値がありました。まだ回復された福音に触れたことのない人は山のようにおられます。私たちは、何もすぐに読んでくれそうな方ばかりにモルモン経を渡したわけではありません。まったく読

みたくないような方は別ですが、すぐには時間を割いてモルモン経を開いてもらえなさそうな方もいました。それでもいつか読んでくれるという希望を持っていました。あるいはその方の家族や友人の方などが見てくれればとも思いました。実際そのようにして福音を知った方がたくさんいるからです。七十人第一定員会のヘンリー・B・アイリング長老が広島で開催された宣教師大会で、次のようなことを言われました。

「一生懸命に福音を^お宣べ伝えても、心を開いてくれない人はたくさんいます。けれど人は一生の中で必ず少なくとも一度は謙遜にさせられる時があるはず。たとえ今受け入れなくてもがっかりしないでください。備えのできた時にそれらの人も必ず福音を受け入れるはず。……」

毎日たくさんの人が街頭を急ぎ足で通り過ぎ、車で足を伸ばせばまだ宣教師が一度も訪れたことのないような所

にあるたくさんの方々の家々を目にします。一体どれだけの人が謙遜な思いになっている時に、備えのできた時に、宣教師や会員と接しているのでしょうか……。もしそれらの人が、あるいはその人の家族や友人がモルモン経を持っていたらどんなによいでしょうか。モルモン経を通して福音が伝えられ神様の力がそこに注がれるはずで。言い換えるならば、このプログラムの意味は1,000人の力ある宣教師を伝道に送り出すことであると言えるでしょう。そしてそれが、ベンソン大管長の言われる「洪水のごとく」（『聖徒の道』1989年2月号、p.4）にモルモン経を世に出すための一助になると信じています。

そのような思いであきらめず頑張りましたが、時は駆け足で過ぎていきました。後残り2日になった時のことです。その翌日の最終日には、街頭での配布プログラムを計画していましたが、それでも150~200冊はそれ以外で頑張らなければ目標達成は無理でした。いろいろな手段を考えましたがだめでした。

とうとう夜になって希望の光が消えそうなその時に神様は祝福を与えてくださいました。北九州地区では今まで不可能だったホテルへの寄贈に成功したのです。170室近くあるホテルの各室にです。これは大きな喜びでした。そしてその翌日、兄弟姉妹の祈りがかなえられました。皆で頑張って目標1,000冊を達成しました。ほんとうに素晴らしい経験でした。この経験は私たちに信仰と喜びを与えてくれました。そこに主のみ手があれば特別な力が注がれます。もちろん私たちにできることはほかにもまだまだありますが、このプログラムを通して皆とともに力を合わせて同じ目標に向かって働く喜びを知ったのです。これは私たちの伝道の歩みの第一歩だと思っています。

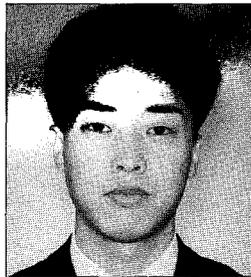
私たちがさまざまな人に渡したモルモン経を、主は決して無意味にはされません。たとえひとりでもこれを通して贖い主を知ることができれば、それは私たちの喜びですが、きっとこの1,000冊のモルモン経は多くの人々のためとなると信じています。

古代の予言者アルマは息子ヒラマン

にこの神聖な記録を託す際に次のように語っています。「思うにこれから後にも、この歴史のためにさらに何千人と言うレーマン人、ならびにわれわれのかたくなな兄弟であって、今現に罪悪でその心をかたくなにしている何千人ものニーファイ人が、その贖い主を知ようにならないとは誰も言えないことである。……これからもまたこの神聖な物を以てその能力を将来の人々に現わしたもうであらう。」（アルマ37:10, 19）

モルモン経が真正正銘真実であり、人を神様に近づけるために最も力ある書物であることを証します。（きむら・けいすけ ワード部伝道主任）

信仰により 思いと行ないを 示して



福岡ステーキ部北九州ワード部
越田高広

私がステーキ部宣教師に召されたところに、北九州ワード部の「モルモン経配布プログラム」が始まりました。ステーキ部宣教師の私は、なんとかして1年間にモルモン経を1,000冊配布しようと思い、いろいろな計画を立て実行しました。

日曜日の集会後に、会員たちとともに車に分乗して駅や街へ出かけ、通行人にモルモン経を1冊1冊手渡したりしました。同時に、英会話や教会のちらしを渡したり、また人々と福音について話をする機会などがあり、とてもよい経験をすることができました。ステーキ部宣教師の同僚とともに図書館へ行って、モルモン経を置いてもら

ることができた時は、とても祝福があったと思いました。ほかにも仕事が休みの日に、ひとりで駅前へ行ってモルモン経を配った日もありました。また仕事で接する人たちに、証や説明をモルモン経に添えて渡すこともできました。

「会員が思いと行ないを一致し協力して、モルモン経をできるだけ多くの人々に渡すことができるように、多くの人々がこの聖典を読み、幸せな生活を送ることができるように、そして1年間の期限内に1,000冊のモルモン経を配布することができるように」と常に祈りました。そしてついに私たちは最後の最後の日に、モルモン経1,000冊配布を達成することができたのです。

最初は、「ひとつのワード部だけで1,000冊なんてとても多すぎる」と思いましたが、天父の助けと導きによって、私たちは目標を達成することができたのです。雨の日や、時間の取れない日もありましたが、私たち末日聖徒が信仰によって思いと行ないを一致して主に示すときに、天父は必ず大きな祝福を与えてくださることを証します。（こしだ・たかひろ ステーキ部宣教師）

亡き父とともに



福岡ステーキ部北九州ワード部
吉村美保

去年の3月、アメリカ旅行へ行く前に、私は教会員ではない父にモルモン経を渡しました。アメリカから帰ってきて、父とはモルモン経について深く話はしませんでした。私が一方的に勧めて読んでもらうのではなく、少しずつでも自分の意志で読んでもらいたかったからです。父は、私や弟が

教会に入ることも、それ以後のことについて、あれこれ言わず、私たちの意志を尊重してくれました。

そんな父が今年2月15日に、突然の事故で亡くなりました。この世でほとんど福音にも触れず、45歳で来世へと旅立った父の葬儀の時、かつて父へ渡したモルモン経を一緒に添えて送りました。現世で福音を知らなかった分、来世で一生懸命にモルモン経を読んで、頑張っしてほしいです。そして、もう一度会う時には、すばらしい神様の子供として、永遠の家族としてともに暮らしたいです。

私たちには尊い書物モルモン経が与えられており、救いの道があることに感謝します。そして、心から愛してくださるイエス様と、天のお父様に永遠の感謝を捧げます。(よしむら・みほワード部扶助協会書記)

さまざまな機会に モルモン経を プレゼント

福岡ステーキ部北九州ワード部
竹下みつえ

伝道中モルモン経を渡すことの大切さを強く心に留めていた私は、帰還後しばらくは頑張っていたのですが、次第に熱意が薄れてしまいました。そんな中、モルモン経配布プログラムが始まりました。ステーキ部宣教師や伝道主任、宣教師の呼びかけや証会での力強い伝道の証を聞くことによって、自分も頑張りたい気持ちになることができたのです。

日々の生活の中で、モルモン経を渡す機会を考えるようになりました。結婚祝いやプレゼントに、主人の会社の人を食事に招待した帰りに渡したりと始めていきました。

そんな中、アパート住まいの私たちのもとにセールスの人がよく訪問して来られます。ある日ひとりの若い女性がやって来て、海外ボランティアに入っていて、その活動として皆さんに募

竹下みつえ姉妹とご家族



金をお願いしていますとのことでした。純粋でいぢうそんな彼女にいろいろと話をしてみたところ、とても感じのいい人で、この人ならモルモン経を読んでもくれると確信した私は、本の説明を少しして渡すことができたのです。彼女は海外に行く時に持っていきますと約束してくれました。また家にときどき来られる置き葉のセールスの人が玄関に飾ってある教会の絵などをご覧になってすぐにクリスチャンですねとおっしゃり、いろいろと教会の話をすることもできました。まだモルモン経をプレゼントできていないのですが、これからも続けて話せたらと思っています。

そしてなによりもうれしかったことは、モルモン経を知っているだけではなく、分かち合うことを実践できたことです。行ないによって神様の助けが得られ、証が強められたのです。いつも頑張ればよいのですが、すぐに怠けてしまう私にとってこのプログラムは神様からのチャレンジでした。

しかし私がモルモン経を手にするきっかけとなったのは、主人が私と結婚する以前に大阪の茨木ワード部での同じようなチャレンジで私にプレゼントしてくれたことだったのです。モルモン経を手にした時ははっきり言って迷惑だと思っていましたが、4年後開いてからは私の人生になくはならない書物となっていったのです。

「私たちが神の奥義を読んでこれを悟り、常に神の命令を私たちの眼の前に置くためであって、もしもこの記録がなかったならば、私たちの先祖さえも無信仰に陥り、私たちもまた兄弟のレーマン人のような者になったであろう。」(モーサヤ1:5)モルモン経を分かち合うことはほんとうに大切なことです。これからも頑張れるように、いつも主に思いを向けていきたいです。(たけした・みつえワード部初等協会会長)

新教会堂の紹介



鉄骨造2階建
建築面積：177.67㎡
延床面積：352.8㎡
敷地面積：572.34㎡

住所：広島県廿日市市下平良1丁目2番14号
電話：0829-32-3678

計り知れない愛

岡山ステーキ部倉敷ワード部

小野紀子

自分が独りぼっちで ^{だれ}誰にも愛されていないと感じる時
主はあなたのことを 気にかけて 愛していることを
思い出してください
主も贖罪の時 独りぼっちの気持ちを 経験されました
あなたの気持ちは 痛いほど わかって下さるでしょう
—あなたは 独りでは ありません—

人の言葉や態度に傷つき 泣きそうになる時
人を赦す大切さを 教えて下さった 主の言葉を
思い出して下さい
自分を十字架にかけようとする人々にさえ
あわれみ深い言葉を かけられたイエス様
主が受けられた苦しみを思うと 心が柔和になります
—そのような人々を 私は 赦します—

試練にたえることができない時
神様は そのような時でさえ あなたを見守られ
支えられていることを 思い出して下さい
—あなたは 天父の子供 価値ある存在だから—

あなたの涙をぬぐいさる時 そこには
計り知れない愛が あなたのために
用意されています

あなたは 永遠の中のひとりなのだから……



(おの・のりこ ワード部日曜学校青少年教師)

編集室から

ローカル

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、各地の行事、家庭の夕べを紹介する記事などをお送りください。

▶現在ローカルページでは証の著者の生年を記載しておりませんが、編集作業の参考のため、投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りく

ださい。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

▶あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
電話 03(3440)2666
ファクシミリ 03(3440)3275

家族新聞募集

▶「国際家族年」にちなみ、家族で作る新聞を通して家族の在り方を探る「家族新聞」が、最近マスコミで話題になりました。教会員の間でも「家族新聞」を作ること家族のきずなを深めている例を散見します。つきましては、皆さんの「家族新聞」を募集いたします。そのほかにも、各ユニットで発行している新聞、機関紙などお送りください。

4月に召された専任宣教師

第176期生21人



後列左から1-8, 中列左から9-14, 後列左から15-21

- 〈名前〉
1. 赤松義成
 2. 神成裕尊
 3. 高橋賀守男
 4. 菅原誠司
 5. 中谷陽一
 6. 鎌田学
 7. 鎌田章寛
 8. 山本佳成
 9. 伊藤弘
 10. 三方崇
 11. 大久保亮
 12. 長濱穰
 13. 細谷哲也
 14. 森村公一
 15. 森智子
 16. 加藤順子
 17. 横山枝真
 18. 内山るり
 19. 打越真弓
 20. 高杉真実
 21. 牛丸由里子

- 〈出身地〉
1. 我孫子S/牛久W
 2. 東京東S/鎌ヶ谷W
 3. 名古屋西S/福徳W
 4. 仙台S/青葉W
 5. 札幌S/札幌東W
 6. 札幌西S/琴似W
 7. 札幌西S/琴似W
 8. 札幌西S/琴似W
 9. 大阪北S/豊中第3W
 10. 大阪M/奈良D/奈良B
 11. 東京南S/千束W
 12. 横浜S/大船W
 13. 東京北S/越谷W
 14. 札幌西S/篠路B
 15. 名古屋西S/犬山B
 16. 仙台S/山形W
 17. 東京東S/鎌ヶ谷W
 18. 東京S/三鷹W
 19. 札幌西S/琴似W
 20. 札幌西S/藻岩W
 21. 札幌S/厚別W

- 〈伝道地〉
1. 大阪伝道部
 2. 名古屋伝道部
 3. 福岡伝道部
 4. 大阪伝道部
 5. 大阪伝道部
 6. 岡山伝道部
 7. 名古屋伝道部
 8. 名古屋伝道部
 9. 札幌伝道部
 10. 東京北伝道部
 11. 福岡伝道部
 12. 岡山伝道部
 13. 神戸伝道部
 14. 沖縄伝道部
 15. 札幌伝道部
 16. 東京南伝道部
 17. 沖縄伝道部
 18. 札幌伝道部
 19. 神戸伝道部
 20. 福岡伝道部
 21. 福岡伝道部

M: 伝道部, S: スターキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

役員の変動

1994年2月26日から3月30日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

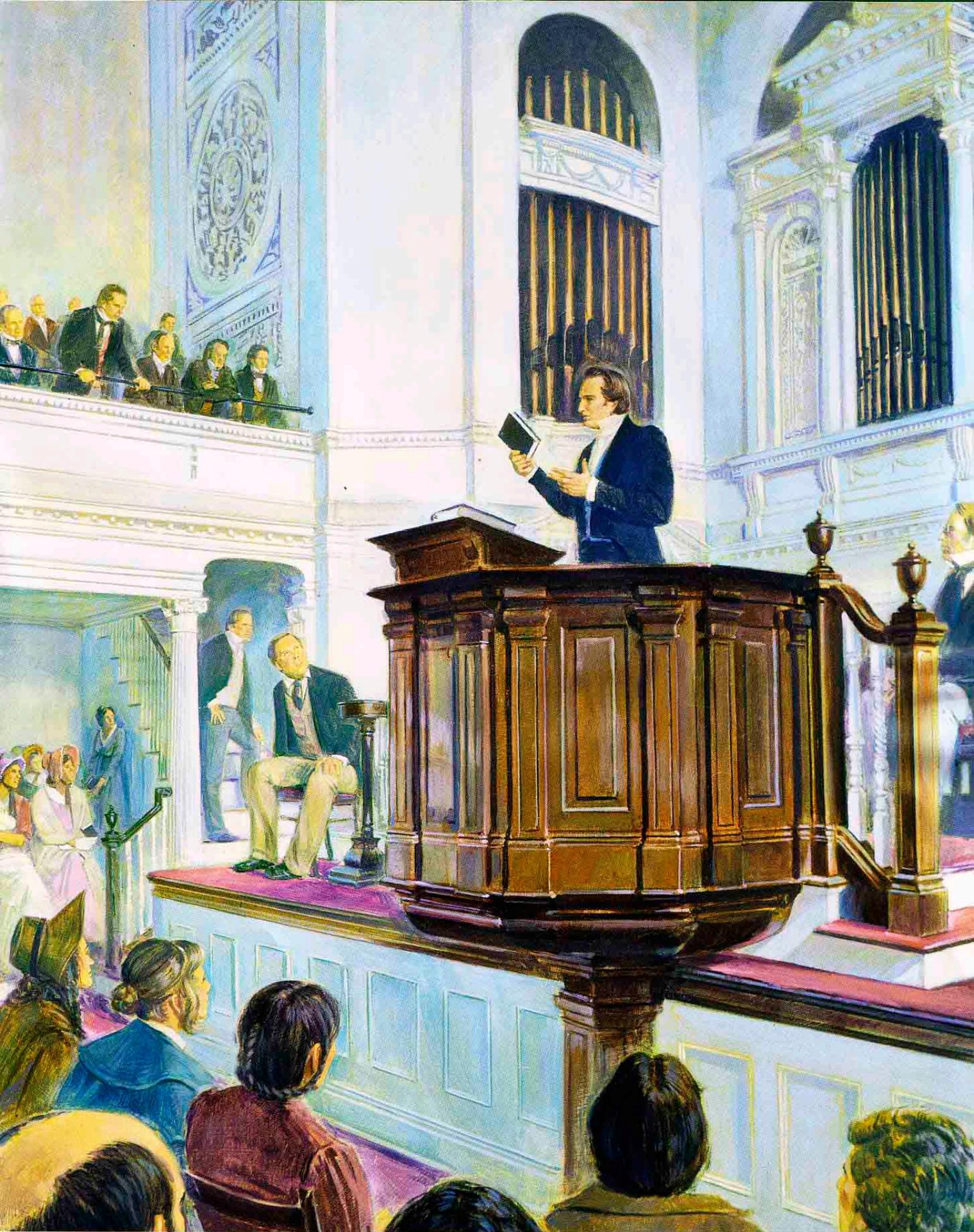
- 大阪東スターキ部
新スターキ部長: 芥正章
(前任者: 田中良一)
- 仙台伝道部郡山地方部いわき支部
新支部長: 安藤孝
(前任者: 安藤敏幸)
- 我孫子スターキ部つくばワード部
新監督: 東光明
(前任者: 佐藤雄司)
- 名古屋伝道部三重地方部伊勢支部
新支部長: 山崎和男
(前任者: 黄木拓也)
- 大阪堺スターキ部泉北支部
新支部長: 溝口州雄
(前任者: 宮田幸彦)
- 神戸スターキ部姫路ワード部
新監督: 大門正司
(前任者: 長谷川進)

新ユニット

- 東京東スターキ部市原支部
支部長: 反田隆文
(1994年3月13日, 千葉ワード部より分割)

名称変更

- 広島スターキ部廿日市ワード部
監督: 林徹
(五日市ワード部より名称変更)



「^{あかし}モルモン経を証するジョセフ・スミス」 ロバート・T・バレット画

1839年、予言者ジョセフ・スミスはペンシルベニア州フィラデルフィアで末日聖徒ではないおおぜいの聴衆の前に話す機会を得た。

その時の模様を、同行したパーレー・P・ブラットはこう伝えている。

「(人々はジョセフの) 言葉に真理と力を感じ、驚嘆と感動を覚え……圧倒された。……そしておおぜいが教会に加わった。」



この世でのジョセフの使命は、
彼が御父と御子にまみえたあ
の最初の祈りに始まり、暴徒
の手により兄とともに銃殺さ
れた時に終わった。殉教後
150年目を迎える今月は、い
くつかの記事でジョセフ・ス
ミスの生涯と業績を考える。